

FS山形県高畠町 活動報告

～高畠高校の志願者数増加を目指して～

福田彩華 田邊莉那 中井一心 渡邊大智 塩田実咲

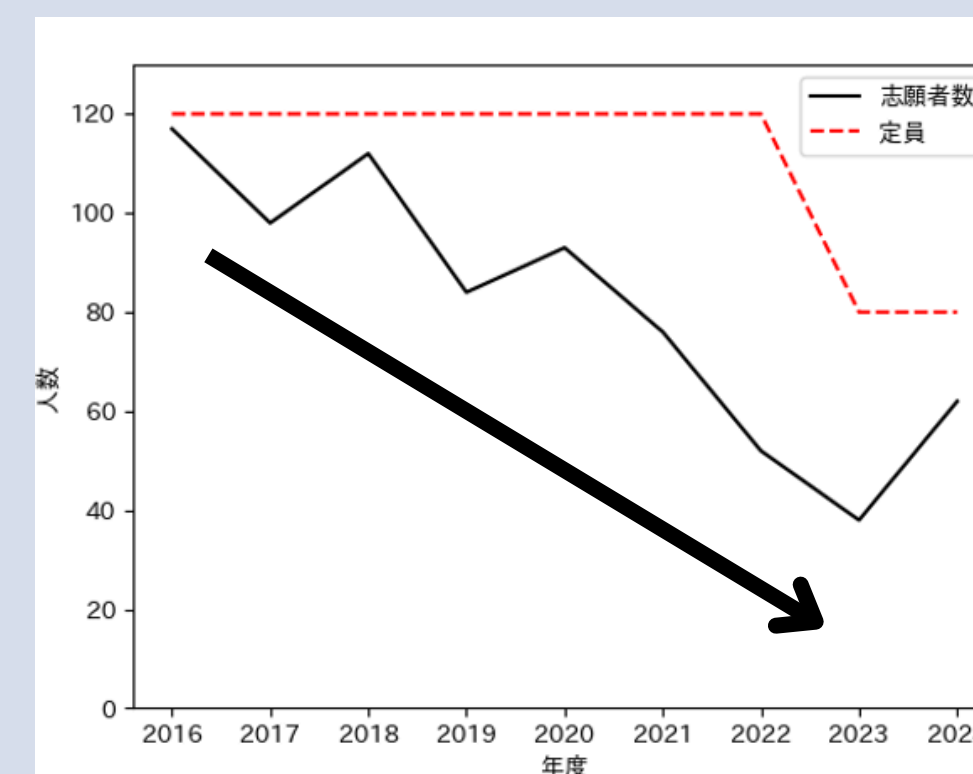


高畠町ってどんなところ？

高畠高校ってどんな高校？

- ・人口 約21000人
- ・面積 180km²
- ・東京からのアクセス
新幹線で片道2時間半

- ・町内**唯一**の高校
- ・学科 **総合学科**をもっている
特色ある学校設定教科/科目多数
- ・課題 定員割れの常態化
23年に定員削減(120人→80人)
- ・「高畠ゼミ」 昨年度発足
3年次の総合的な探究の時間を利用



1年間の活動内容

年間を通しての活動

- ・高畠ゼミの授業（オンライン）
- ・fs生内でのミーティング（毎週）

月ごとの活動

- ・6月 顔合わせ、高畠ゼミ開始
- ・8月 マスコット、文化祭準備
- ・9月 文化祭準備
- ・11月 アイデアコンテスト、ポスターセッション準備
- ・12月 山形幸せサミット
- ・1月 1年間の活動のまとめ

3度の現地活動

- 第1回：オープンスクール(7月)
- 第2回：文化祭（10月）
- 第3回：現地報告会（2月）

活動の問題点と解決策

★ 表面的な問題点

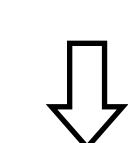
- ・コミュニケーション不足
- ・スケジュール把握不足
- ・去年の活動との断絶

★ 根本的な問題点

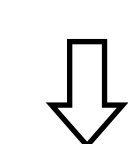
- ・町役場の方の期待に応えられなかった
- ・東大生の存在意義を見失ってしまった

★ 解決策

早めの現地活動



信頼関係の構築



高畠ゼミ生とFS生の
両方にとって有意義な活動に

今後の展望

★重視すべき3点★

- ①文化祭に力点を置く
- ②本格的な探究活動の導入
- ③活動期間の延長



① なぜ文化祭？

- ・大きな学校行事
 - ・下級生とも活動できる
 - ・地域の方々とも活動できる
- ⇒多くの人を巻き込んだ活動へ



② なぜ本格的な探究活動？

- ・東京大学との連携を強みに
 - ・専門書の読解やそれを踏まえた討論
によって論理的思考力を高める
- ⇒高畠ゼミの魅力化へ

③ 活動期間の延長とは？

⇒下級生を巻き込むことで、より長期的な視野での活動を可能に



福島県棚倉町 FS チーム

鬼塚大輝 戸井啓允 前田晃輔
多賀谷勇佑 堀田悠生



地域観光資源の掘り起こし・磨き上げ (魅力ある観光ルートの構築)

基礎情報 | 福島県棚倉町について

棚倉町は、福島県南東部の東白川郡に位置し、栃木県・茨城県と隣接する自治体です。人口は約 13000 人で、観光客数が年間 55 万 5944 人（平成 30 年）です。主な観光地としては、棚倉城跡・山本不動尊・馬場都々古別神社（陸奥一宮）・八槻都々古別神社（奥州一宮）があります。「神社建築の博物館」と表現できるほど価値のある文化財を有し、東京圏からのアクセスも悪くない一方で、知名度が低く観光客の誘致に上手くつながっていない現状があります。

活動内容 | 観光コンテンツの洗い出しと魅力ある観光ルートの構築

FS チームに与えられたミッションは、「第三者の視点から観光コンテンツを整理し、魅力ある観光ルートを構築すること」でした。そのためにまずは、事前調査のなかで棚倉町の統計や計画、観光コンテンツについての整理を行った上で、第 1 回現地活動では観光地を網羅的に巡りました。それから、メンバーそれぞれが感じたことから課題やターゲットを設定し、追加の事例調査も行いながら観光ルートの構築を進め、第 2 回現地活動では各施設を管理する方々に実情や提案したルートのご意見をお聞きしました。それらをもとに観光ルートをブラッシュアップするとともに、観光客の誘致に関する諸提案をソフト・ハード両面から考え、最終報告会を行ってきました。

■現地活動

現地活動は、8/2-4・11/26-27 で現地調査を 2 回行い、3/9 に最終報告会を行いました。第 1 回現地活動では、町の観光パンフレットや観光協会の WEB サイト、また棚倉町を紹介している Instagram の旅行系アカウントなどから観光コンテンツを調査したものを網羅的に巡りました。観光資源の魅力を確認できた一方で、「休憩場所が少なすぎる」「ターゲット層が定まっていない」「町内を回る移動手段がない」といった課題も多く見つかりました。第 2 回現地活動では、ふるさとガイドの町民の方々や観光スポット関係者の皆さま、町長・副町長に我々が作成した観光ルートを実際に提案しフィードバックをいただきました。最終報告会では、集まってくださった町民の皆さまに観光ルートと補足の提案を合わせてしました。

■観光ルートの提案

2 回の現地調査を通じて、棚倉町が有する寺社仏閣の観光資源は非常に魅力的なものであると感じました。特に昔の国ごとで最も格式が高い神社である一宮が 2 社近接して位置していることは全国的に見ても極めて稀であるため、我々は一宮 2 社を中心に据えた観光ルートを提案しました。ターゲットは寺社仏閣巡りなどが好きな「コアな歴史好き」とし、レンタサイクルで手軽に楽しむことのできる日帰りのサイクルルートと車で広域的に周遊する 1 泊 2 日ルートを設定しました。それに合わせ、実際にどのように観光客の手元に渡るべきかの提案としてルートマップを作成しました。知識があると一層楽しめるため、観光スポットごとにコラムを掲載することで新たな学びを得ることができるようになりました。

■補足提案

観光ルートの提案に合わせて、グルメマップの作成や観光案内所・オープンスペース、WEB や SNS 上での季節情報の集約、AR/VR の活用についての議論も行いました。グルメマップは、棚倉城跡周辺のご飯屋・お菓子屋・カフェなどを掲載し、休憩場所がわかりやすくなるようにしています。そして、レンタサイクルの拠点や歴史的観光資源に関する情報を学べるパンフレットなどをおいた観光案内所と休憩できるオープンスペースの設置することを提案しました。また、棚倉城には天守閣や大阪城にも勝る設備だったとされる櫓がない城跡公園となっており、その再生は厳しいため VR の活用について、実際に似た状況で上手く VR を活用している事例紹介と重ねながら提案しました。



▲棚倉町の位置

▼馬場都々古別神社（境内）



▲馬場都々古別神社（本殿）

▼甘盛堂のお菓子



▲山本不動尊にて



▲八槻都々古別神社にて



◀狐のお面づくり



▲日帰りサイクルマップ



▲グルメマップ

7 月	事前調査 (観光地の洗い出し)
8 月 2-4 日	第 1 回現地活動 観光地を網羅的に調査
8-11 月	提案作成 (観光ルートの策定など)
11 月 26-27 日	第 2 回現地活動 主な関係者にヒヤリング
12-3 月	最終報告準備
3 月 9 日	第 3 回現地活動 最終報告会

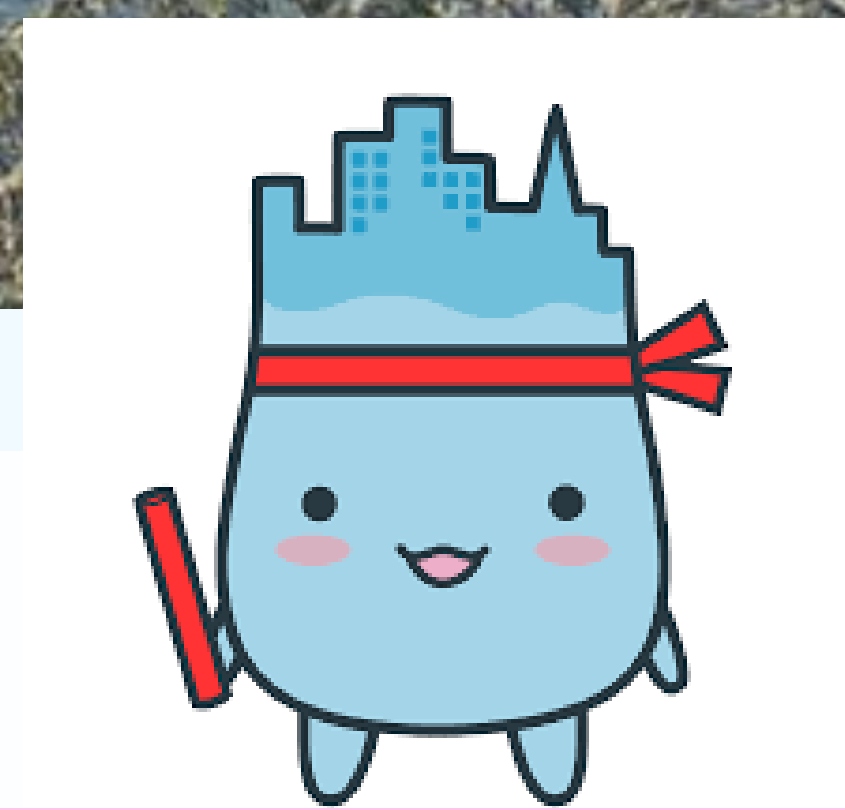
▲報告会までのタイムライン

▼活動を通じて学んだこと

- ・実際に経験することの重要性
実際に足を運び、地域の雰囲気を感じることが理論や事前調査だけでは得られない学びにつながった
- ・地域の声を直接聞くことの大切さ
関係者や住民の方から直接聞くことで、観光ルート設計や改善のヒントを得ることができた
- ・活動の軸を作ることの価値
ターゲット層や観光ルートの方向性を確立することで、目指すべき目的やゴールが明確になり計画を効率的に進めることができる

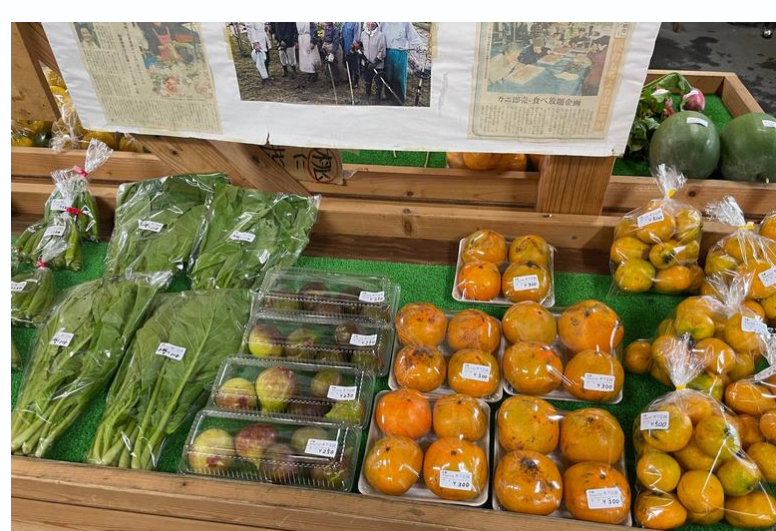
富山県魚津市 松倉地区

メンバー 加藤小百合、森山日天、鳥居希実、山崎美怜、溝口慶



「魚津市松倉地区」について

- ・魚津市（富山県東部）の山あいの地区
- ・越中最大の山城「松倉城」がある
- ・松倉金山もあり、栄えていた
- ・刀踊り・獅子舞などの伝統文化が残る
- ・豊かな自然環境の中で、様々な農作物の栽培がおこなわれている
- ・松倉城の国史跡指定を目指す一方で、地区では
獣害・空き家・人口減など様々な課題も…



現地活動

第1回

- ・松倉城址と金山坑道の見学
- ・伝統文化の学習
- ・各集落の散策
- ・地元の方との交流
- ・地区の魅力を学ぶ（ヤギの杜、藍染めなど）



第2回

- ・文化祭にて提案
- ・山菜など地域の食文化の学習
- ・松倉城址のより詳細な見学
- ⇒ 第一回の疑問の解消&最終提案に向けた準備



テーマ

メインテーマ：

「松倉城跡を核とした地域の活性化」

松倉地区の地域資源の中核に据えられている松倉城跡を中心として、地域活性化を目指す

サブテーマ：

「空き家の活用」

空き家の利活用・古民家再生を視野に入れた提案

提案に向けて

SWOT分析



現地活動でもって私達が考えた

強みと弱みをクロス分析。提案練りに活かす。

強み

松倉城・金山
棚田の風景
地域のつながり

弱み

人口減
微妙な観光資源
少ない金を落とす場所

提案内容

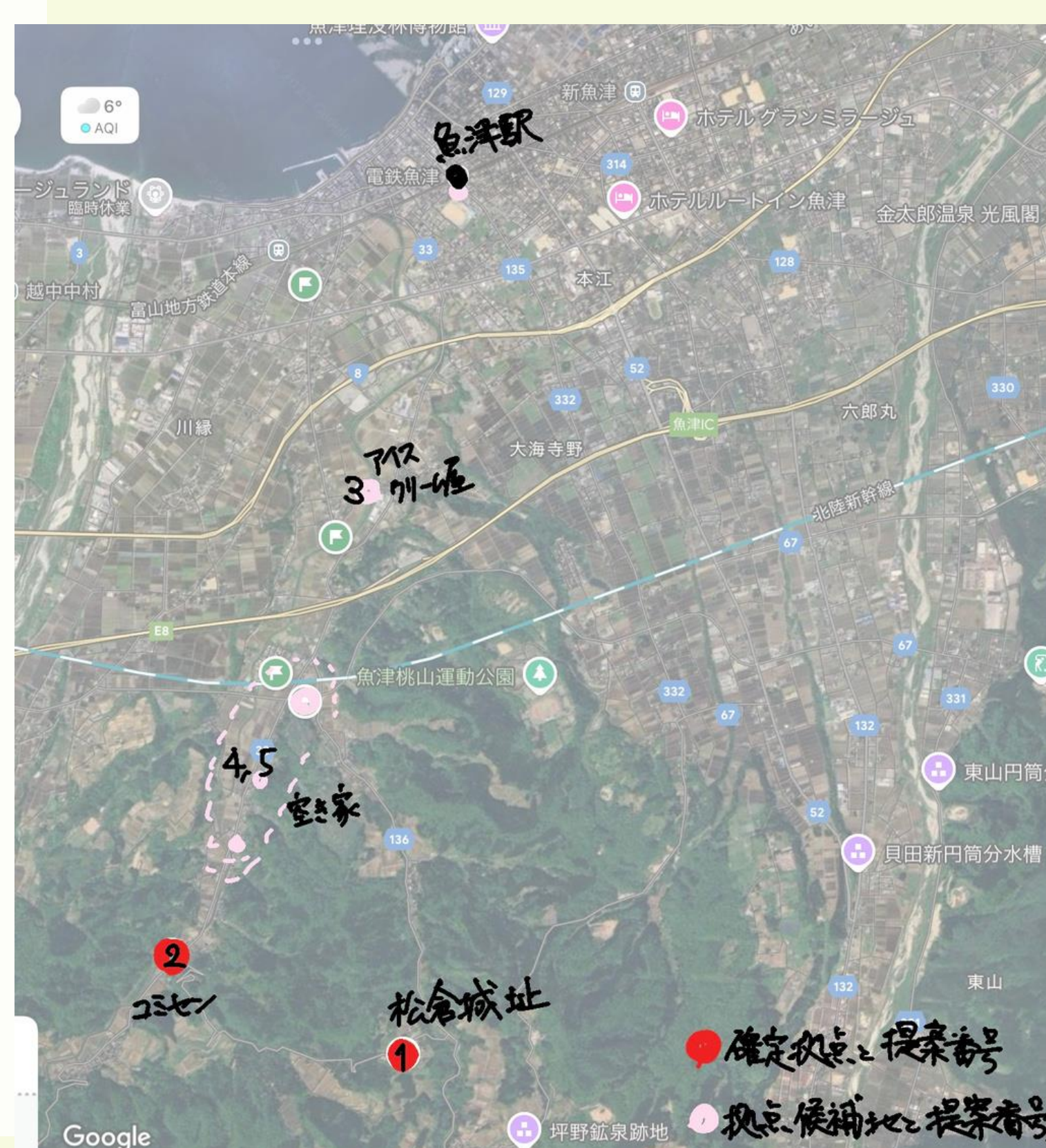
①魚津城址遠足

背景：実際のところ、魚津の人たちだってお城を誇りに思っているのか？

目的：松倉城を自分事と捉える市民増

内容：学校の遠足先に松倉城を組み込む
総合科目の授業内で取り上げる

- ・子供達の楽しい記憶にするための工夫
- ・魚津の人にこそ誇りに思ってもらいたい（しかも史跡登録が期待されている）
- ・子供達の当事者意識を培い、地域で城を維持するのを目指す
- ・コミュニティセンターとの連携



②コミュニティセンターの活用

背景：コミュニティセンターの建替え予定
松倉城跡の資源としての分かりにくさ

目的：コミュニティセンターを松倉城跡の関連施設として活用する

内容：コミュニティセンターにおいて、

- ・パンフレットや展示の作成
- ・体験設備の設置（コスプレ・スタンプ等）
- ・フォトスポットの設置

以上の内容をコミュニティセンター建替え計画の一環として提案する

③ご当地アイスの開発

背景：山の「食」の魅力が伝わっていない、お金を落とす場所が少ない

目的：魚津市松倉地区ならではのアイスを開発し、地区の食の魅力を伝える・お金を落とすものを生み出す

内容：現在魚津市松倉地区の近くにあるアイス販売会社と提携してご当地アイスを作る（よもぎ、フェイジョアなど）。松倉地区や近くの地区で販売し収入の一部とする。住民にとっても食の魅力を知るきっかけとなる。

④獣害ハンターへの誘い

背景：獣害の被害が深刻だが、対策の担い手不足に直面

目的：狩猟や農業など中山間地域の暮らしに興味を持つ人々を獣害ハンターとして巻き込むことで、地域内だけで解決できない獣害被害に対策する

内容：狩猟サークルや民間コミュニティに活動拠点の1つとして松倉地区を提供する提案を行う

⑤空き家の企業への貸し出し

背景：空き家の増加、維持管理費用の問題

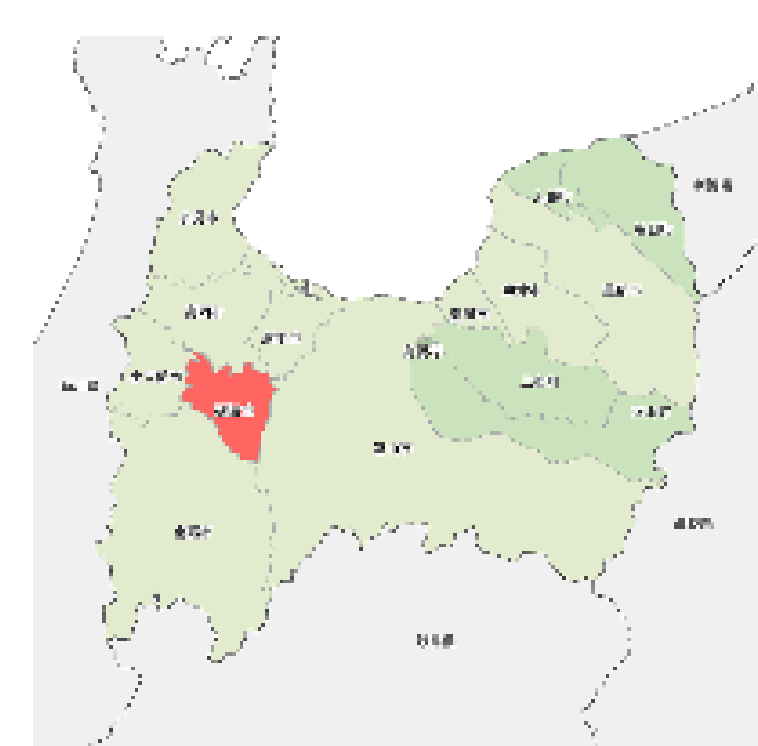
目的：空き家の維持管理にかかる費用を補填できる程度のカネを空き家から生む。また、空き家活用を通して、地域と地域の企業や人のつながりのきっかけを創る。

内容：新興企業・中小企業など、保養所を持っていない企業が使える保養所あるいはサテライトオフィスとして、空き家のサブスクリプションサービスを行う。

砺波市概要



- ・特徴
 - ・富山県西部に位置する人口約4.5万人の市
 - ・市域を縦貫する一級河川「庄川」によって形成された砺波平野が広がる
- ・名物
 - ・チューリップ球根の生産が盛んで、毎年ゴールデンウィークには「となみチューリップフェア」が開催される
 - ・屋敷林に囲まれた家々が点在する「散居村」が広がり美しい景観を誇る
- ・東京からのアクセス
 - ・東京 → 新高岡駅（北陸新幹線 約2時間30分）
 - ・新高岡駅 → 砺波駅（JR城端線 約20分）



雄神地区

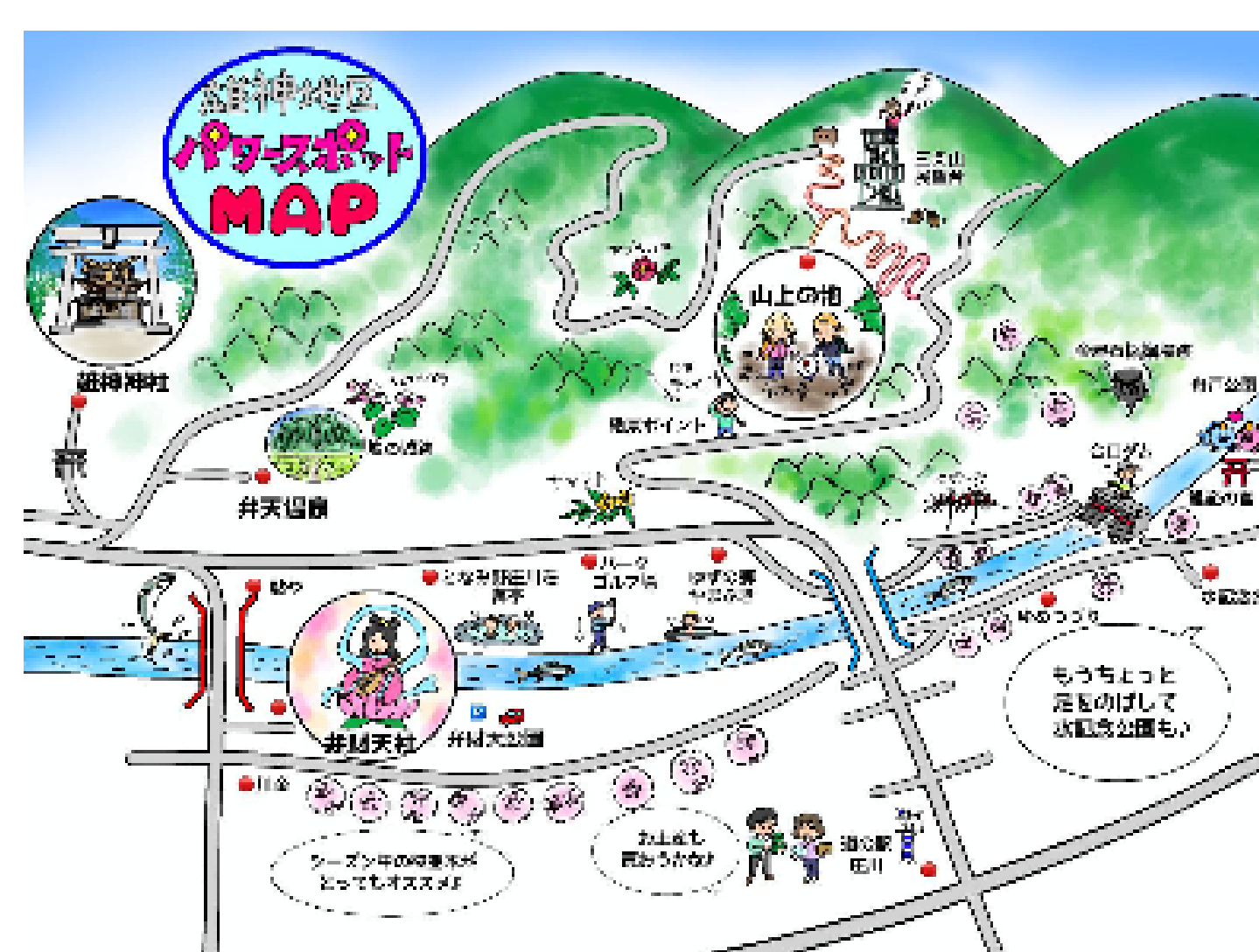


- ・特徴
 - ・砺波市の東部に位置し、庄川沿いに広がる東西約2km、南北約5kmの集落
 - ・人口は701人、252世帯（R6.1月末時点）
 - ・庄川の河岸段丘上に形成され、古代から人々が定住、豊かな自然と史跡・文化財が多い地域
- ・課題
 - ・高齢化、人口減少など過疎化が進む
 - ・子どもたちの人口も減り続け、令和5年3月に地域内の保育所が閉所
 - ・他方、現在も住民には結束力があり、地域活動が活発
 - ・里山保全活動、公民館活動で全国表彰
 - ・「地域包括ケア顕彰」受賞



成果

観光マップ作成

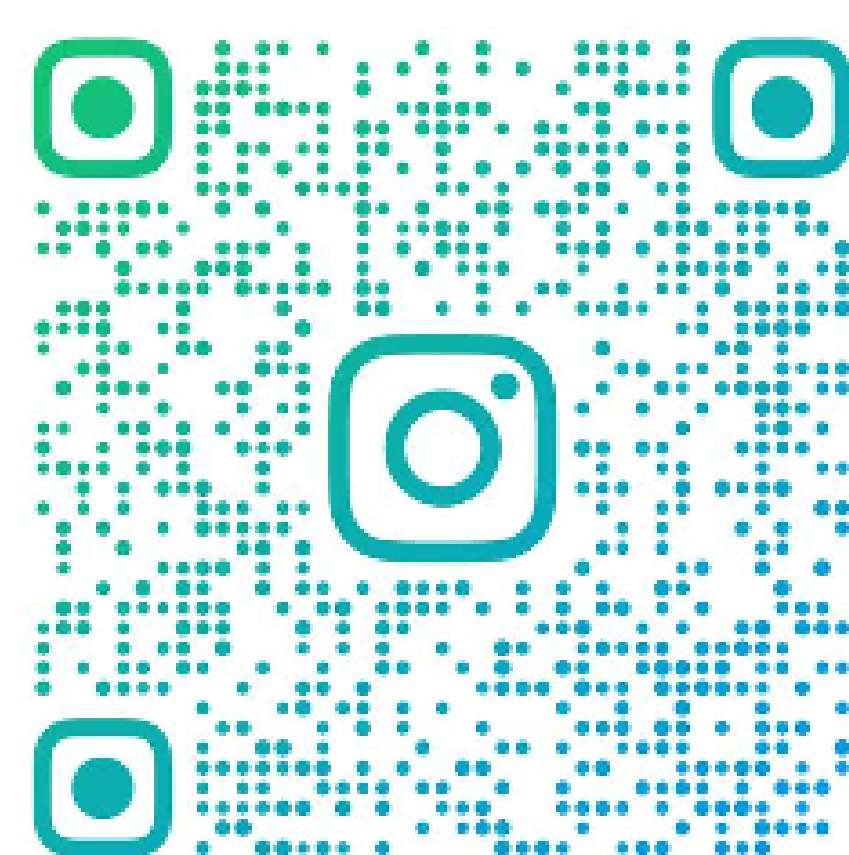


HP『雄神へようこそ！』作成



雄神自治振興会公式HP
『雄神へようこそ！』

公式Instagram開設



@TOYAMA_OGAMI

ターゲット選定

50代の旅行者
（+ 20～30代の子育て世代）

このターゲットを対象として
周辺の観光資源を組み込んだ
モニターツアーを実施することを提案

ミッション



- ・東大生の視点から雄神の魅力を発見し、発信方法を考える
 - ・HPやSNSなど新しいツールを使った情報発信の準備を整える
- 交流人口増加や地域活性化の達成につなげる！

現地活動記録

現地活動①（9/5～7）

- ・地域の方々と顔合わせ
- ・地域の史跡・文化財や周辺の観光スポットを視察
- ・三条山・山上の池にて『ゼロ磁場』を検証



現地活動②（11/9～10）

- ・SNS発信に成功している地域のおむすび屋を訪問
- ・地域の集まり（公民館祭り）に参加し、地域住民の方に中間活動報告を実施



現地活動③（2/15～16）

- ・HPやSNS運営の引継ぎを実施
- ・最終現地報告会・意見交換会を実施
- ・砺波の名物であるチューリップや酒蔵を鑑賞



学んだこと

- ・地域振興を成功させる最も大きな要素は、地域住民の方々の熱意・パッションが高く保たれていること
- ・地域課題の解決を考えるにあたっては、直接訪問などで現場を理解することが何よりも重要

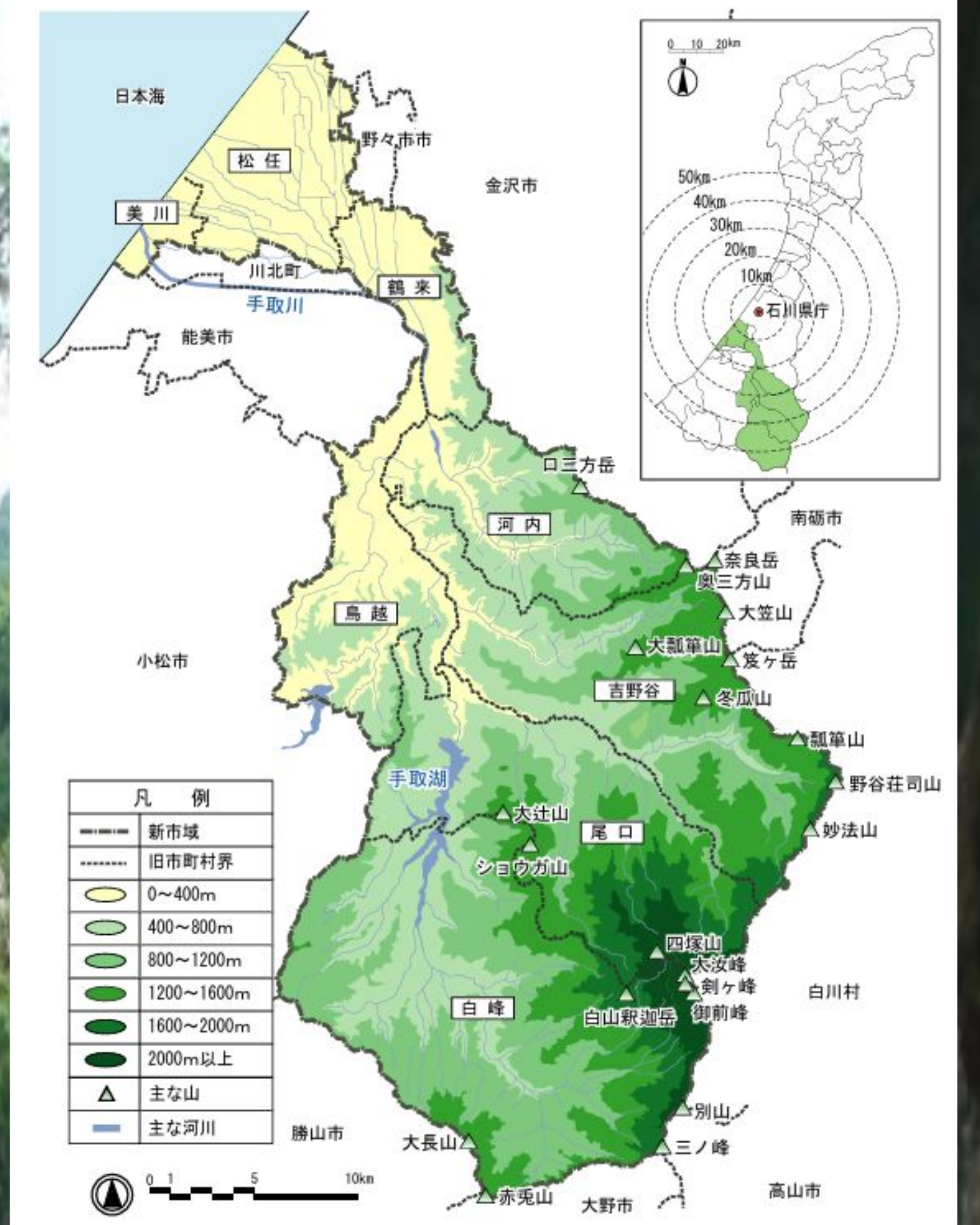
空き家の管理と利活用

石川県白山市

梅村知仁 小山実桜子 平井伶磨

● 白山市について

- 標高2700mの白山と手取川扇状地から成る
- 松任、美川、鶴来、白山ろくの4地域
- 金沢から電車で10～20分のベッドタウン



● フィールドワークの内容

- ヒアリング(市役所、宅建協会等士業協会、町内会長etc)
- 空き家の視察、所有者の方へのヒアリング

● 課題

- ステークホルダーの多さ、専門知識の必要性、空き家
- 所有者の相談先、行政の相談先、法律関係の難しさetc...
- 空き家バンク活用の難しさ
知名度の低さ、登録件数の少なさ、情報量の少なさetc

● 提言

- 士業連携の促進 「白山市版 空き家再生引き受け隊」
⇐市が市民に信頼性を担保し、士業に法的行法等を整理提供
- 空き家バンクの利用促進
⇐周知方法やサイトの掲載方法の工夫

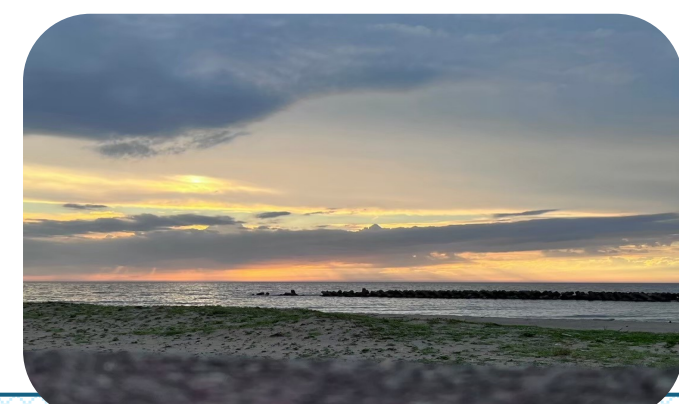
もし、東京の大学生が卒業後、 石川県能美市に移住し生活することになったら

～「能美すごし」発見・発掘&シティプロモーション企画共創プロジェクト～



能美市とは

- 人口5万人弱
- 東京と大阪どちらからも **電車で約3時間**
- **九谷焼**や**松井秀喜さん**の出身地
- **海から山まで豊かな自然が豊富**

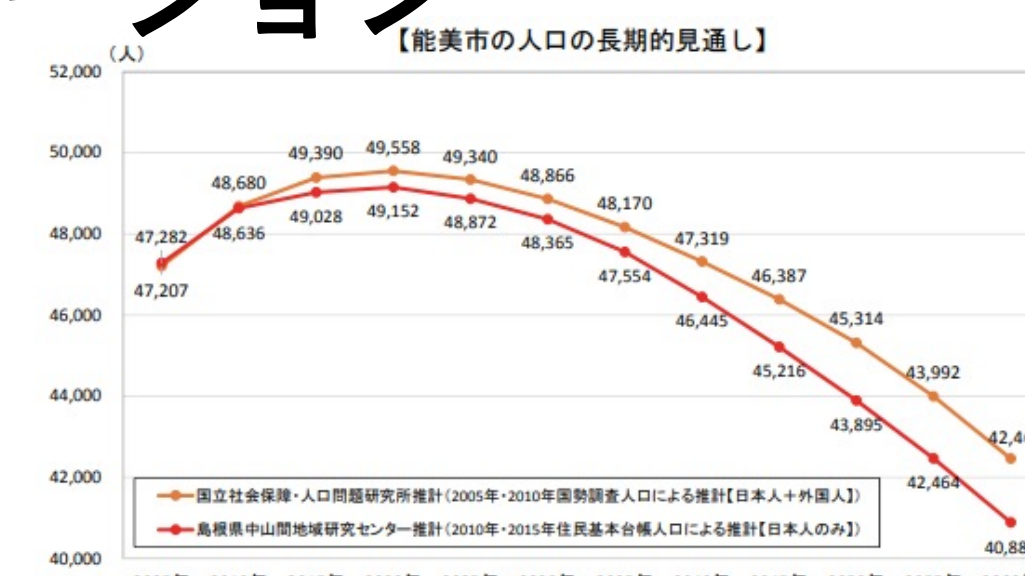


下田清太郎 原泰也 山口彩乃 森田晃弘 テーマ

能美市の「**すごい!**」を発見・発掘
⇒ **関東圏の大学生**に向けた**関係人口・移住定住**
人口につながるシティプロモーション

いまの能美市は...

- ・人口減少／高齢化による**地域力の衰退**
- ・大都市圏での**低い知名度**



活動内容

第1回現地訪問 9/19-9/22

一能美市のことをもっと知り
「すごい!」を発見する一

- ①市長、市役所担当課、移住アンバサダーとの意見交換
- ②いしかわ動物園、九谷陶芸村を訪問



第2回現地訪問 11/30-12/1

一第一回をもとに**「すごい!」**
を発信し、新たに生み出す一
提案施策の実現に向けた現地でのリサーチ
移住アンバサダーへのインタビュー
九谷焼絵付体験



短期施策:イベント開催

一いま実現できる**「あるものを活かす」**施策一
五月祭にて「能美でのびのび」出店予定(現在準備中)

出店内容

- ✓ 能美市の特産品の販売
- ✓ パンフレットの配布
- ✓ 能美市の魅力を説明した展示
- ✓ 作成動画の放映(第2回訪問時に撮影したものを編集し作成)
- ✓ 移住等の相談会



活動を通して感じた**能美市の「すごい!」**を来場する
大学生に発信し関係人口の創出を目指す

提案①:屋根付き電動自転車の導入

背景

能美市での移動は**9割以上が自動車**
→都会の若者にとっては、車を買う**お金の余裕**がなかったり、
免許を持っていなかったり...
→**自転車を導入し移住者に貸与**

なぜ屋根付き?

石川県は**年間降水時間が日本一**
→雨の日に自転車に乗るのは億劫...
+あわせて**自転車道を整備**し、環境面からも自転車利用を促進



新たな
「すごい!」
を生み出す
長期施策

提案②:Discordの開始

背景

市内外両方の人が能美に対する**愛着が湧くきっかけ**となるよう
なコミュニティを作る
移住者が気軽に相談できるようなプラットフォームがない

内容

- ・相談系チャンネル、インフルエンサーによるチャンネル、ラジオチャンネルなど**様々なチャンネル**
- ・使ってもらいインセンティブを付ける
- ・現状の**移住関連情報や市政の情報発信**も

画像出典: 内子ヘイジャー!
https://mercado-d.com/uchiko_heiju/



提案③:長期インターンシップ

背景

現状移住者は**仕事の関係で移住してくる人多**
→首都圏に住む大学生は地方移住を考えても
就職の面が障壁になるのでは...

内容

- ・能美市の地元企業と地方に興味がある大学生をマッチングし、**リモートと実地を併用しながら長期インターン**を行う
- ・企業側にとっても、**優秀な学生を在学中から取り込む**ことができる



提案④:地域と移住者を繋ぐ環境

背景

家庭とも職場とも別の居場所＝**サードプレイス**
となる場所が能美市には多くない

内容

- ・市内の団体が、**市のHPやSNSを通じて活動を発信**する
- 移住者などが新しく入ってきやすい環境を作る
- ・**移住体験施設**に案内を置き、活用
- ・趣味を通じてより市内の人とつながりやすい街へ



感想・学んだこと

自治体が実際に抱えている課題を真剣に考えることで、**政策の難しさや地域の人々との関わりをもつ楽しさ**を体感し、貴重な体験ができてよかった。(下田清太郎)

色々の楽しさ・難しさはあったが、やはり**現地の方と直接話す中で一番学びと楽しさ**を感じられた。自分たちができること、知れることに限界も感じたが、その中での試行錯誤はいい経験だった。(原泰也)

1年を通じて**市のリアル**もたくさん体験させていただいて、様々な側面を考えられるようになった。能美市の皆さんに助けていただき、色んな話も聞けてとてもためになった。(山口彩乃)

FSを通じて実際に地域の人と話す中で、地域への思いなどをお聞きし、**熱意が伝わってきた**のが印象的だった。また、能美市の魅力に気づくことができた。(森田晃弘)



三重県南伊勢町担当

～日本酒『道行竈』を通したコミュニティ形成～

工学部3年 水野那奈子
文科1類2年 青木遼大
文科2類1年 下村英理

道行竈について

- 三重県 南伊勢町 道行竈区
- 人口：34人
 - 高齢化率：73.5%
 - 入江の**静かな海**
 - 隣接した**美しい山**



【「チーム道行竈」の結成】
人口減少、高齢化→耕作放棄地が増加
地域の土地利用、竈方文化、農村景観の活用など
一体的なシステムのモデルを構築したい
↓
南伊勢町と皇學館大学が締結した包括連携協定の一環として、日本酒プロジェクトが始動。地域住民を中心とした有志により「チーム道行竈」が結成され、道行竈の酒造りが始まった。
2020年には法人化され、現在ではオンラインでの販売も行っている。



東京での活動

- 8月3日 移住フェス視察
- 12月1日 WS 開催（右記）
- 2月13日 南伊勢町映画試写会 登壇



試写会での登壇

FSのOBの方、他の団体の方と意見交換

【関係人口】視点の気づき

「三重県の限界集落の存続」について考えるワークショップ
@三重テラス（東京日本橋）

＜特に注目された提案＞
教育の工夫（修学旅行の誘致）、
キッチンカー販売、
学園祭での出店 etc.

<気づき>

- 縦と横のコミュニティがあまり持続的ではない現状

第一回 9月10日～9月13日

- 南伊勢町巡り
- 座談会
- 南伊勢の扉の方との交流会他



新しいことに挑戦する地元の方



塩作り等の別の取り組みも視察



座談会で地域の方々と交流

【住民】視点の気づき

現地住民の方との座談会

<現地の方々との会話>

- Q.道行竈をどんな集落にしたいのか
A.文化を持続できるレベルで残したいが、理解してくれる人に関わってほしい
Q.これからも住み続けるのか
A.不便だから出ることも考えている

<気づき>

- ただ「PRすれば良い」わけではない
- 愛着を持って関わってもらうことが求められている



同じく地域に関わる大学生と交流



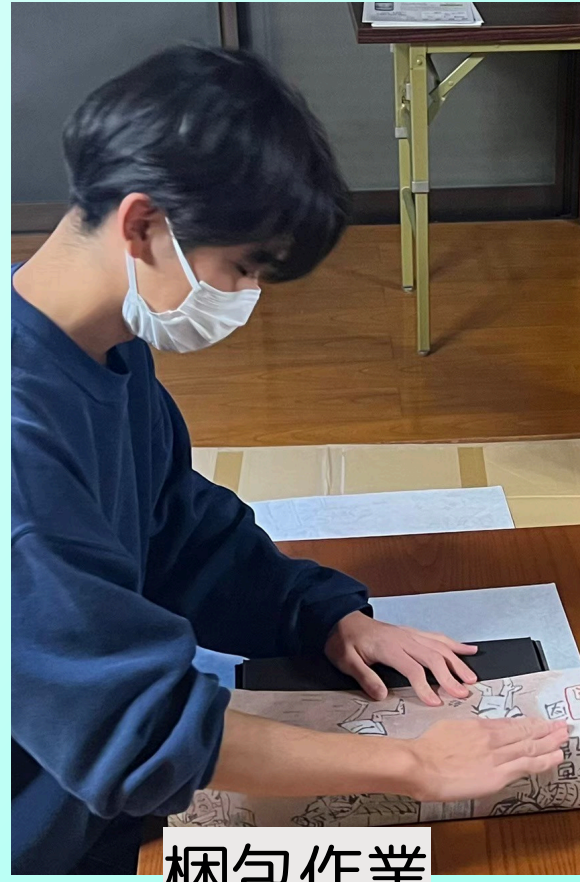
地元伝統の「竈方祭」を知る

第二回 12月21日～12月22日

- 日本酒梱包作業
- 販売の手伝い



新酒の販売をお手伝い



梱包作業

【販売者】視点の気づき

だいでこ市(伊勢市)での販売

伊勢市で行われている地元の市での販売に参加
伊勢市内・道行竈外の方々と交流

<気づき>

- 日本酒事業の難しさ
ex;) 売り切れていない日本酒がある
- 伊勢市の方々にも日本酒事業が知られていない

第三回 3月2日～3月4日 農作業、現地住民との第二回座談会 他

解決策を考える上での前提

- この日本酒の年間製造本数は1000本（樽の容量・稲生産量に限界）
- 現在の年間販売本数は600～700本
- 1本あたり2100円
- 日本酒の中では比較的マイルドで、FSメンバー的にも飲みやすかった。
- 東大FS自体は複数年を跨って行っている。
- 先輩FSメンバーとの連絡網構築中
- 南伊勢や三重県に関わる学生団体が複数存在
- 今年度はバラバラになっているコミュニティの繋ぎ合わせを行っている

解決策としての小さなアクション

私たちには「日本酒」という売るものがあります。売れ残っている300本の日本酒をお金に変えることがまず道行竈プロジェクトの「資金面」において貢献し、事業としての持続性（田んぼを維持するのにもお金がかかります）を促すことができます。その点でこの日本酒を多くの人が来場する東京大学の五月祭に出店する予定です。これまでも道行竈プロジェクトでは三重県などで行われるイベントに出店することはありましたが、来場者が数千人程度のものでした。今回二日で10万人以上が訪れるとも言われる本校の文化祭で学生を含めて可能な限り多くの人にこの日本酒をお飲みいただいたり、知っていただいたりすることを目指します。そして現在倉庫に眠っている在庫の流通にも貢献します。

ただ売るだけではありません。文化祭で二日間出展するにあたってこのFS24年の三人では人手が十分ではありません。そのため、今年度のFSにおいては南伊勢関係の他団体の協力もあり、これまでの南伊勢町FSメンバーや南伊勢にゆかりのある学生、南伊勢町で地域インターンをしている関東の学生などが集まったコミュニティを作成することでそれらの人材が東京にいても積極的に南伊勢町に関われるようにしました。現在はこのコミュニティはつくりたてということもあり、このコミュニティでなんらかのイベントが行われた実績はありませんが、この五月祭を第一回の交流会の場とすることを予定しています。「販売者」としての経験を「東京にいながらできる」場所を提供することが、この文化祭のもう一つの意義です。学生のみならず、今回のFSでお世話になった役場の方々や集落の方にも来ていただけるよう手配中ですので、事実上の第4回現地活動をFSという枠を超えて、他の大学や来場者の方とともに行うことができるわけです。



気づきから見つけた課題

- 現地住民や区長などのパワフルな活力
- 一方、担い手の高齢化、継続が困難に
- 必要なのは、継続的に深い関わりが可能な関係人口
- 深い関わりがには地域への愛着や当事者意識が必要
- 東京で三重県や南伊勢町に携わる活動を行う団体は多いが相互に交流は少ない
- 三重出身の人などからの認知度も高くない
- 魅力あふれる現地の方と接する機会がない

課題解決のための目標設定

- 地域に愛着を持った私たち自身が南伊勢町との継続的なかかわりを持つこと
- 現状あるコミュニティの活動を促進するきっかけを作ること
- 取り組みの知名度を向上させること（まずは三重にゆかりのある人から）
- 現地の方と接する機会を設けること

次へのステップ～関係人口になるハードルを下げる～

東京において南伊勢町と関わる事ができれば、距離という隔たりを超え、その関わるハードルを下げる事ができます。コミュニティを活性化することで他の大学メンバーが自分の学校で南伊勢の特産品や日本酒を販売するなどといったことも行いやすくなります（人材派遣的な意味）。またこの文化祭での日本酒販売についてもこれから継続的に行っていきたいと考えています。このような形でまず「南伊勢と関わる」という機会を増やすことが関係人口創出において最も重要なことであると言えます。そして私たちの特徴である「南伊勢に行かなくてもお金を南伊勢に回すことができます」という特性も活かすことができます。そしてこのような関わりを通して一人や二人でも、南伊勢に移住しようとか、継続的に関わっていこうとか、二拠点生活をしてみようとか思う人が出てくれば、持続可能な町の形を作ることにつながるのです。単に行政の行う政策のみによって地方創生を実現しようとするのではなく、産業・民間の立場からもまちの未来を動かしていこう、動かしていけるのではないかと、という考え方です。そしてまた単に「こういうことをしたら良いのではないのでしょうか」と提案するだけでなく私たちがまずできること（第一歩は文化祭）を自分たちが動いて行っていくことが大事であると考えています。あくまで目指すのは「大いなる発展」ではなく「維持」です。

三重県鳥羽市

～離島地域を訪れる機会の創出～



大西美帆奈 森本早紀 山代晃聖

鳥羽の離島部について

三重県鳥羽市の離島地域は答志島、菅島、神島、坂手島から成り、鳥羽マリンターミナルから市営定期船でアクセスできる。それぞれの島に特徴、魅力があるが、今回は観光業の盛んな答志島を対象に提案する。



魅力

・自然環境

離島ならではの大自然

・歴史文化

漁村文化や九鬼義隆にまつわる歴史、「寝屋子制度」などの島ならではの風習

・地域おこし協力隊や、島の女性たちが島の旅をプロデュースする島の旅社推進協議会の活躍

課題

・観光客の島への還元

→通訳・翻訳研修／島での模擬授業や家庭教師／児童・生徒向けのミニ生態系調査や観光解説パネル翻訳で英語学習／ユニバーサルデザイン学習とバリアフリーマップ作り

・認知力、ブランド力

→ストーリーの構築＋コミュニケーションチャネルの改善により差別化の強化

・島を訪れる際の「障壁」

定期船などの交通情報、知名度、広報

→鳥羽にきた人に離島地域にも来てもらう工夫が必要

→若い人を呼び込むために、まずは離島について知ってもらい、インスタグラムなどで情報発信

現地活動概要

離島散策、マリンアクティビティ、神祭の見学、地域の方々や地域おこし協力隊の方々との交流など



左上:地域プラットフォーム「ねやこや」
右上:天望山レイフィールド
下:神祭の様子

提案①修学旅行などの新アクティビティ

・答志島生物・岩石図鑑を作ろう！

島の動植物や岩石を見つけ、写真やスケッチなどで記録し、帰ってから図鑑などで調べ、調査結果カードを作る
→生徒は生態系調査の体験ができ、答志島ではデータを蓄積し生物／岩石図鑑を作ることができる

・外国人向け紹介パネルを作ろう！

答志島の中で対象スポットや対象物を決め、調査し、英語で解説文を作る
→生徒の英語学習、外国人観光客への対応

・バリアフリーマップを作ろう！

島のどこにバリアがあるのかを考え、マッピング
→子ども視点だからこそわかるものがあり、島への還元にもなる

・ねやこや見学

見学やインタビューなどを通して生徒に「ねやこや」が担う機能を知ってもらう
→自分が住む地域のことを考えてもらうきっかけをつくる

提案②謎解き脱出ゲーム

答志島を舞台とした謎解き脱出ゲーム

→謎解きしながら答志島のことを知ってもらえる
近年流行している謎解きが若年層が島を訪れるきっかけに

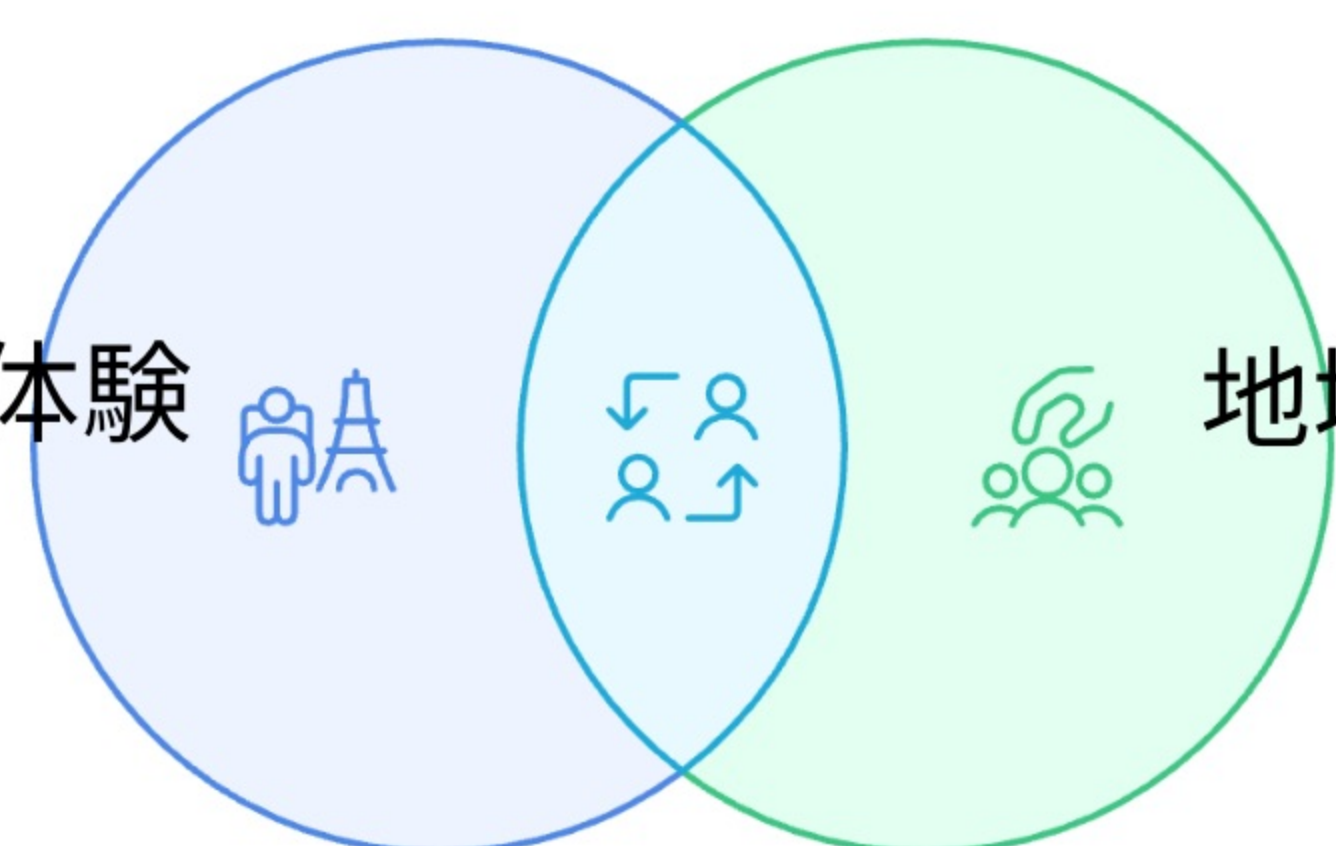
提案③デジタルスタンプラリー

スタンプラリーの専用サイトにアクセスして、対象スポットに行き、スタンプを獲得する
→ゲーム的な楽しさがあり、若年層にも人気が出やすい
島全体を効率的に回れて、デジタルコンテンツの提供により観光客の理解が深まる
運営が容易

提案④島での就業体験

教員志望の学生や、海外から来た方などに、期間を決めて答志島で就業体験・旅客などの外国語対応をしてもらう
→離島で働いてみたい教員志望の人や海外の人を誘致でき、島の教育にも役立つ

観光客の体験



地域の利益

テーマ：田根地区を訪れた大学生が継続して関わるための仕組み作り」

1. 滋賀県長浜市田根地区について

・ 基本情報

- 長浜市南部に位置する中山間の地区
- 高齢化率は40%を超える

・ 特色

- 2007年以降大学のフィールドワーク開始
- 以後多くの大学生が来訪するように
- 一度訪問した大学生が、プログラム終了後には再訪することも
- 大多数は、数日間滞在してその後の関係が途絶えている



2. 第1回現地調査

・ 目的

- 田根地区を再訪する動機や魅力の発見

・ 方法

- 地域住民、市役所職員、大学生へのインタビュー

・ インタビュー結果

- 多様な大学生や地域の方と出会える
- 豊かな自然、地方のことを学べる雰囲気
- △交通のハードル
- △一度の訪問では魅力を十分に把握できない



3. 第2回現地調査

・ 目的

- テーマに対する具体的な施策の提案と詳細の検討

・ 方法

- 市役所職員、地域おこし協力隊の方との協議
- 観光地の下見

・ 結論

- 「ホームカミングデイ」の実施を決定
- ホームカミングデイの中で訪れる観光地は、費用や所要時間の関係で変更することに



4. 具体的な提案

ホームカミングデーの開催

・ 背景

- 再度訪問しても何ができるか明確でない
- かつてともに活動した仲間が集まれるかわからない

・ 目的

- 「再度訪問したらかつての仲間と会える」ということを保証する

・ 内容

- 1日目：長浜の工場見学→親睦会
- 2日目：餅つき→活動報告会→懇親会
- 3日目：いちごジャム作り体験

・ 成果

以下の3世代を巻き込んだ60名規模のイベントを開催した。

- 現地の子供達約30名
- 関東の大学生約15名
- その他の現地の方々約15名

・ 見えてきた課題

- 集客する上での魅力が足りない
- 交通費が障壁となっている
- 他大学や地区のイベントありきになっている



5. まとめ

全3回の現地活動を通して、田根地区やそこに
関わる人々の魅力を肌で感じ、最終的に
田根でホームカミングデーを開催することが
できた。

今後も継続的に田根地区が魅力的な町であり
続けるために、今回の取り組みを次の世
代に受け継いでいきつつ、さらに多くの人口
を取り込んでいく方針を考えていきたい。

「美浜の資源を活用して関係人口を創出」

東京大学FS和歌山県美浜町チーム
平田愛、大橋晴太、田村宙照、舘野颯希

01 美浜町について

和歌山県美浜町（人口6300人）

紀伊半島最西端、新大阪から1時間45分

- ・4.5KM続く広大な浜と防潮松林「煙樹ヶ浜」
- ・カナダ移民の歴史息づく三尾地区「アメリカ村」



02 美浜町からの課題

「美浜の資源を活用して関係人口創出」

関係人口 = 町外関係人口 + 町内関係人口

- ・隣接市町村より一桁少ない観光客...
- ・町民自身、美浜町に無関心...



- ①美浜町の新たな魅力発掘 ②町民も楽しめる仕組みづくり

03 現地活動

第1回 交流&体験で魅力探し

- ・松洋中学校で地図づくり訪問授業
- ・キーパーソン/U35を招く食事会
- ・カナダミュージアムでヒアリング
- ・和田祭りに参加 など



マップ
仮作成

第2回 煙樹ヶ浜に焦点

- ・自転車で煙樹ヶ浜周辺散策
- ・谷国水産に地引網漁のヒアリング
- ・仮作成版マップにFB など



マップ
本作成

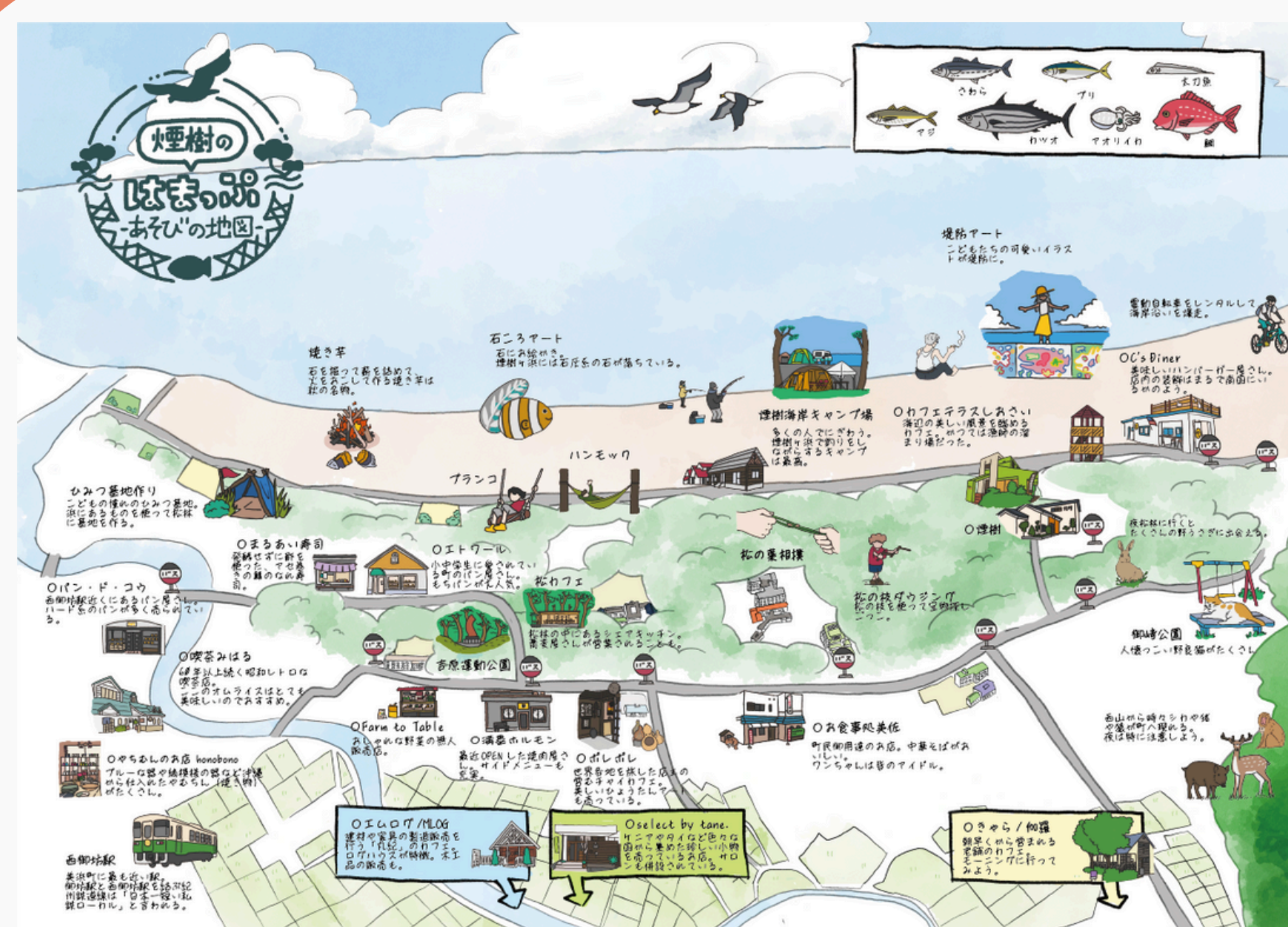
第3回 完成報告&FB

- ・現地報告会
- ・三尾地区のリノベーションWSに参加
- ・町内の店にお礼参り&設置のお願い など

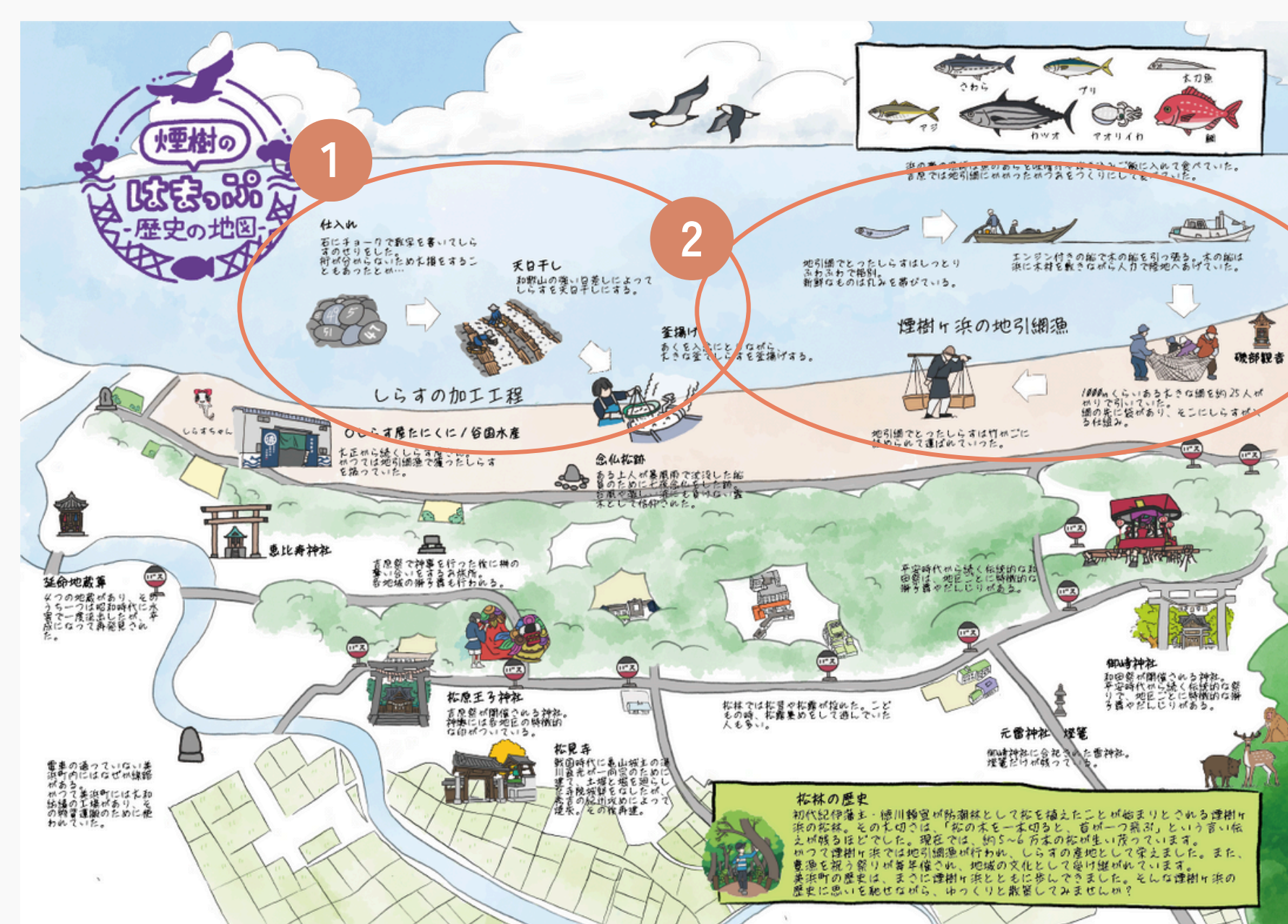
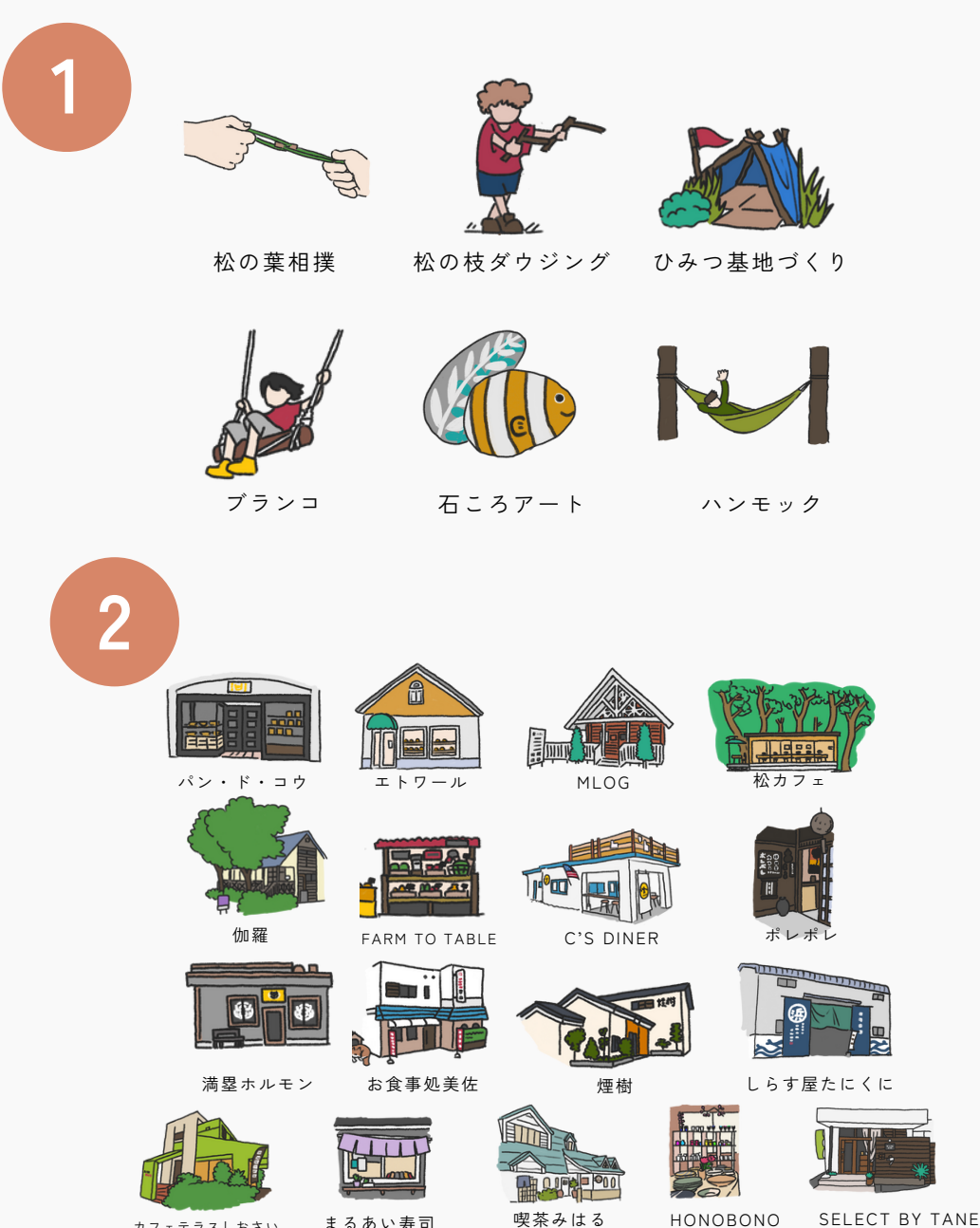


04 マップ作成

地図はこちらから



あそびの地図



歴史の地図



1 住民に聞いたあそび

定番の遊びから、松林ならではの遊びまで。
まちの人に聞いた小さいころの浜での遊び方。
今のこどもにもこんな面白い遊び方があることを知ってもらいたい！

2 煙樹ヶ浜の店舗

煙樹ヶ浜周辺には地域に密着した様々なお店がある。
地域に愛されるお店を町の人にも観光客にも知ってもらいたい！

1 しらすの加工工程

かつて煙樹ヶ浜で行われていた地引網漁。昔の資料や
当時を知る人のお話を参考にまとめ、イラスト化。

2 煙樹ヶ浜の地引網

谷国さんにインタビューしてわかったしらすの加工工
程。仕入れ方法のエピソードが面白い。

3 祭り

美浜町を語るには祭りは欠かせない！
実際に祭りに参加して自ら見聞きしたものをイラスト
にして掲載！

4 石碑

町民もそれほど普段気に留めていないものだが、地図
に起こすことで興味をもつきっかけに。

町民に、「こんなのあったよね」を。初めて訪れる人に、「こんなのあるんだ」を見つけてほしい。

05 今後の計画

地図の運用計画

ポスター

美浜町のお店や施設など人目に付く
ところでポスターとして張り出す

パンフレット

町内のお店やキャンプ場、駅
などに置かせてもらい、手に持って
煙樹ヶ浜を散策してほしい

インターネット

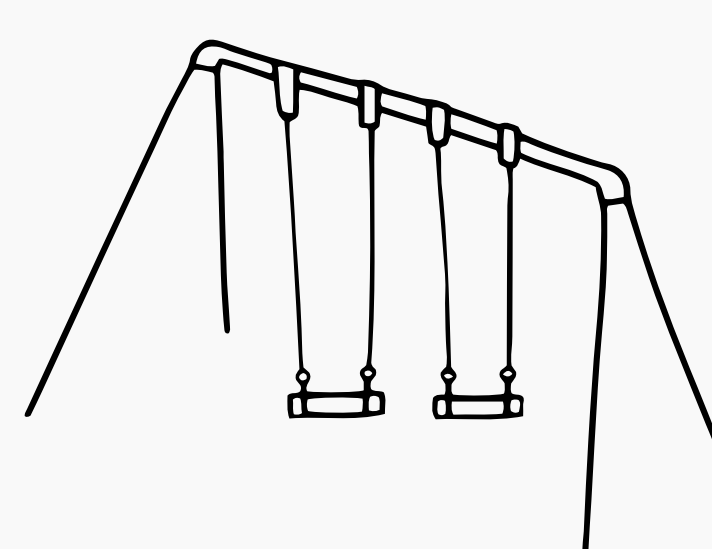
自治体のSNSや移住者向けWebサ
イトなど、美浜町に来る前に見つ
けられるようにする

更なる活用



あそびの動画化

はまっぷに掲載したあそび
を動画化して、実際にどう
煙樹ヶ浜で遊んでいたのか
を再現！



遊び道具貸し出し

ハンモック、ブランコなど
をキャンプ場で貸し出し。
海だけでなく、松林の中
でも遊べる場所をつくる



ミッションラリー

はまっぷに掲載したもの
に関連した指定のスポッ
トで、ミッションを達成し、
ポイントを獲得する街歩
きゲーム

一年だけで終わらない、持続的な活動へ

06 学んだこと

地域の方への感謝

自分たちに見えないところでも、役場の方や現地の皆さんが
動いてくれているからこそ活動できる。その感覚を忘れずに動
くことが必要。

具体的な「モノ」を作ることの重要性

地図づくりの際、一度プロトタイプができてからどんどん話
が進んでいく感覚があった。「どういうものを作ろうとしてい
るか」のイメージが一目で全員に共有でき、現地の皆さんとの
コミュニケーションが大幅に楽になり、アドバイスももらえる
ようになった。

人と人との繋がりが町を作る

移住者がきっかけで新たに移住してきた人に会ったり、住
民、移住者、外部からの人との交流から新しいアイデアが動き
出す現場に立ち会えた。

00 上富田町のいま

上富田町



- 人口15,681人
- 地形
 - 南紀白浜空港から車で30分
 - 富田川があり、自然豊か
- 名産品
 - 温州みかん、南高梅、ひょうたん
 - ヤマモモ、すもも
- 見所
 - 世界遺産である熊野古道の稲葉根王子、八上王子



スポーツによる地域振興とウェルネスタウン構想

上富田町スポーツセンター
(球技場、野球場、テニスコート、屋外グラウンド、屋内グラウンド、芝生広場、トレーニングジム、研修棟)

- 年間12万人利用
- 地域住民のスポーツクラブによる使用
- プロ選手の利用や合宿誘致
- スポーツの試合
- 栄養バランス弁当の販売
- 地域包括支援センターによる介護予防教室



01 視察(第一回現地活動)

①上富田町と近隣市町村のスポーツ施設を見学

- 近隣施設との違いや現在の使用状況などを把握
 - 職員やインストラクターの方から現在の取り組みについて伺う
- 自分達に新たにできる取り組みは何かを
考えるきっかけに



新規の利用者が少ない



アクセスがよくない
山の上にあり、車がないと通えない



合宿利用に関しては閑散期がある



担当者の世代交代がある
合宿利用担当者の交代

02 提案と実践(第二回現地活動)

①トレーニングジム無料開放

目的

- 運動への興味関心を高める
- ジムの新規利用者の獲得

→この無料開放だけのために来た方も
何人かいらっちゃった



②ユニバーサルスポーツ体験

- ポッチャとラダーゲッターを用意
- 誰でも簡単に楽しめるスポーツを子どもからお年寄りまで様々な方で体験



③上富田町マルシェを開催
地域の魅力を再発見



03 今後の展望について



新規の利用者が少ない



アクセスがよくない
山の上にあり、車がないと通えない



合宿利用に関しては閑散期がある



担当者の世代交代がある
合宿利用担当者の交代

→運動する機会やコミュニティ作りを目的に、スポーツイベントを実施
ターゲットの明確化

→上富田町スポーツセンターを通るコミュニティバスを運行

→合宿利用の少ないオフシーズン割引

→運営側も若い世代が楽しめるように、キックボクシング、
eスポーツなどのイベントを開催し、担当してもらう



04 プログラムを通して学んだこと

・和歌山県上富田町の素晴らしさ、暖かさ

上富田町でさまざまな取り組みを行なっている方々との
素敵な出会い、地域の方との暖かい交流ができた。

・イベント運営プロセス

企画書作成・会場手配・内容決定・物品準備・広報・当日実施・
振り返りなど、一連の流れを実施することができ、貴重な体験に。



・まちづくりにおける「人との繋がり」の重要性

懇親会などでできた地域の方とのつながりが
イベントの広報や内容決定において重要なものであった。



若年世代への普及啓発を通じた 認知症の方やご家族が安心できる地域づくり

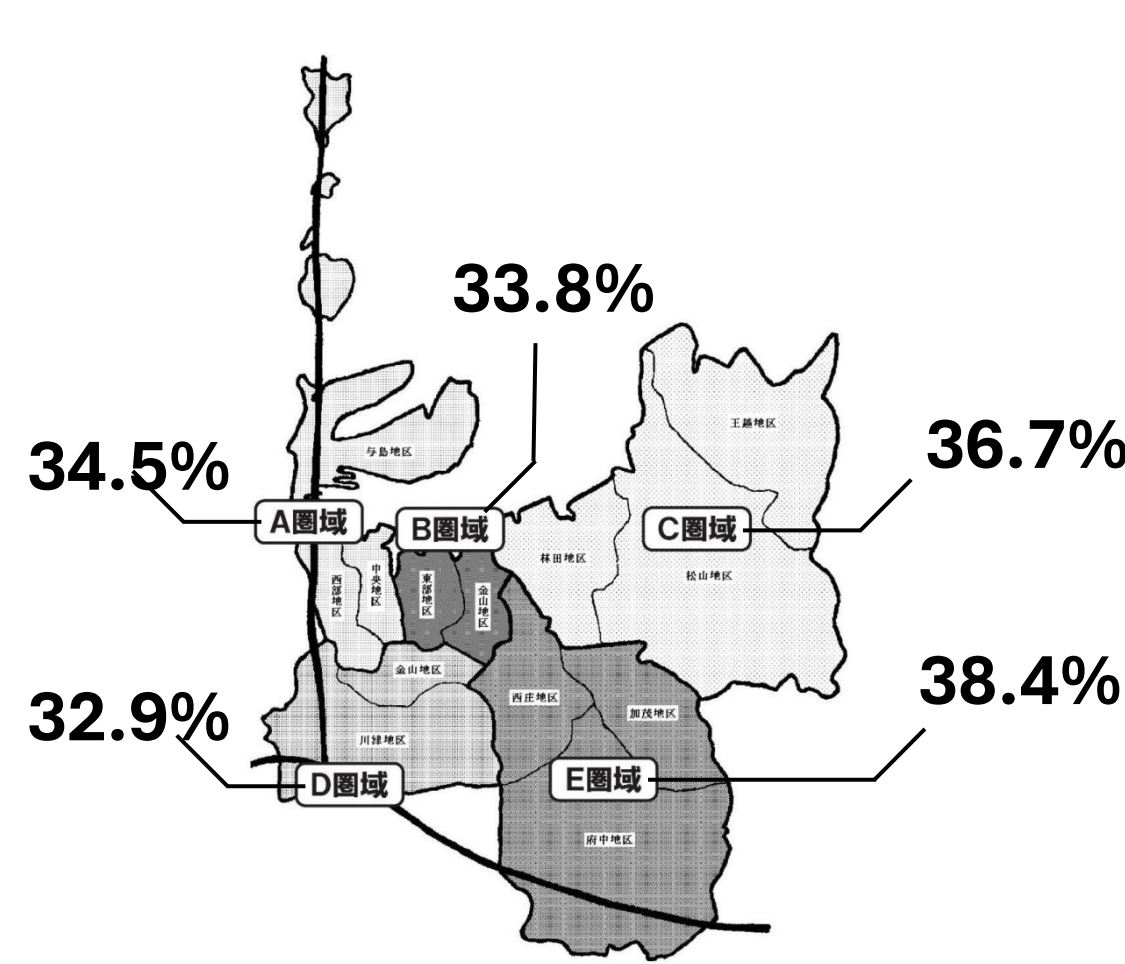


背景：坂出市について

高齢化が進み認知症の方が増える中で、**地域で見守る体制や相談機会が不足**



坂出市の位置
(瀬戸大橋の「玄関口」)



圏域ごとの高齢化率

地域の取組と活動方針

地域課題にともに向き合うため、**チームオレンジ（オレンジまろ）**の立上げと並行して、課題の洗い出しを実施

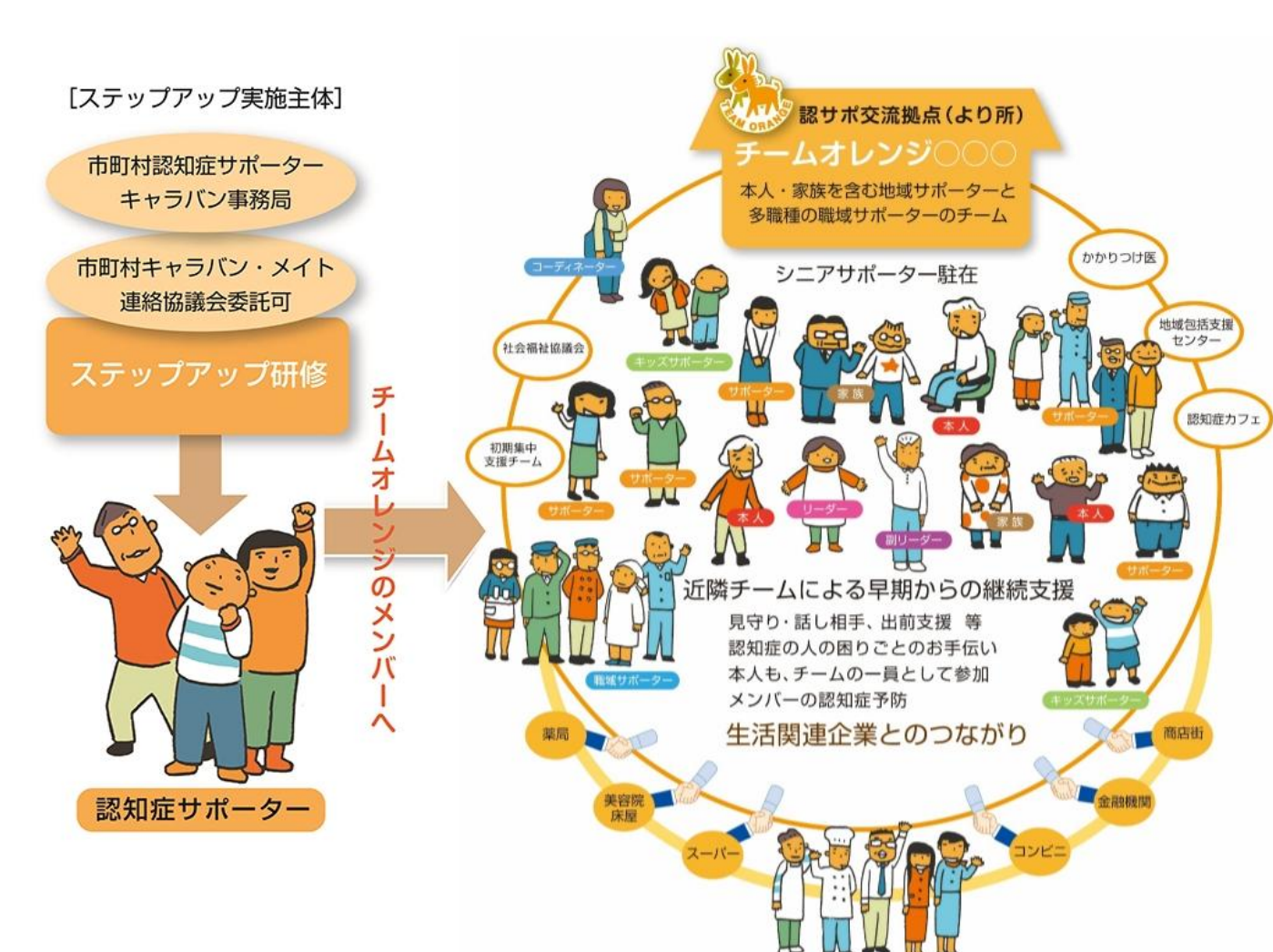
学生

自治体・地域住民

課題発見
新しい発想

チームオレンジ
の推進

活動方針



チームオレンジのイメージ
(認知症サポーター養成⇒拠点での活動)

第1回現地活動（8/27-29）

- 坂出市社協の方と意見交換
- 地域食堂「やなぎにかえる」での住民の方との交流
- グループホーム、デイケア施設の訪問（MIRAI病院）
- オレンジまろのメンバーと顔合わせ＆意見交換



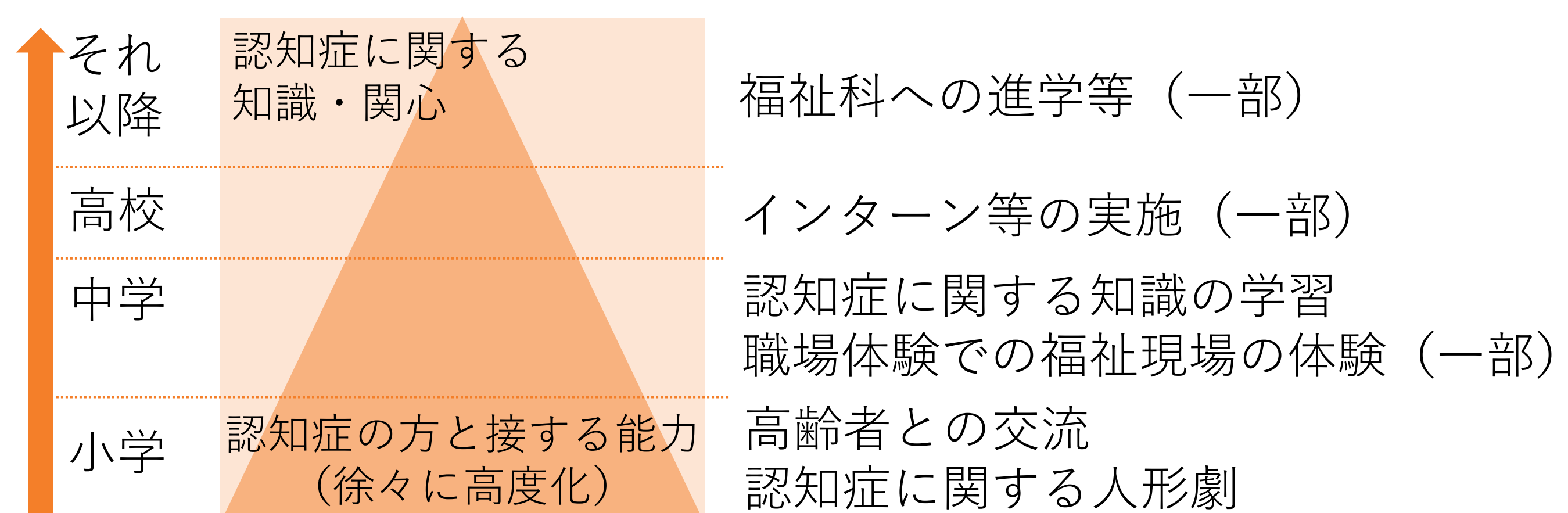
第2回現地活動（2/27-3/1）

- 社会福祉法人松寿会にて、新卒の介護福祉士の方からお話を伺う
- 教育委員会にて、小中学校での認知症教育について意見交換
- オレンジまろミーティング
- 坂出市立図書館にて、子ども向け認知症啓発イベントの実施



学生からの提案

1. 学校等の場を通じた、地域住民への包括的かつ段階的な普及啓発



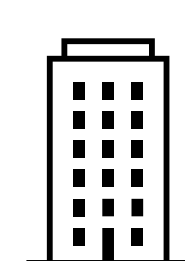
2. 「認知症」に捉われない交流の機会を設けることを意識したオレンジまろの活動

それぞれのアクターの役割

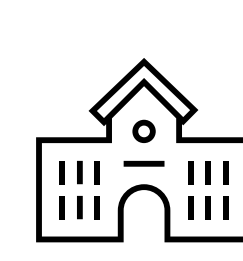
自治体

学校

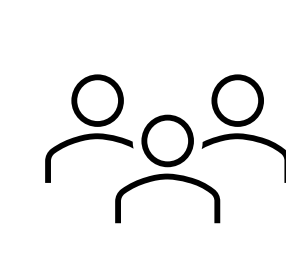
大学生・若者



認知症の知識教育

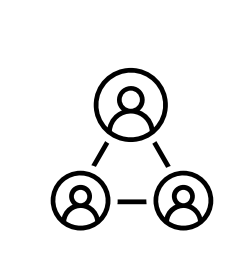


身近な実感の醸成

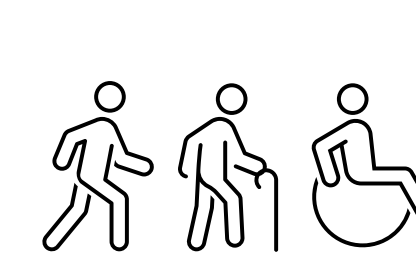


認知症への関心・
地域福祉への興味形成

見守り・支援への参加



見守り・支援
役割を
持って貢献



認知症の方

マイルストーン

若年世代の
知識・関心の理解

学校にて理解度アンケート等を実施

イベントの実施を通じた
啓発内容の改善

理解度を踏まえた
イベントの企画

学校等での
継続的な実施

学びと今後の展望

活動初期には、学生としてチームオレンジにどう参加すべきか悩み、学生側で企画を考えるなども行っていた。しかし、チームオレンジへの参加を通して、ご自身や家族の経験などから、思いや具体的なビジョンを持った主体的に活動する意欲をもつ地域住民の方が大勢いらっしゃることを確認した。

⇒学生側は住民の方の持つアイデアを咀嚼し、**若年層ならではの視点や学問的視点**を考えることに集中すべき（来年度への反省）

アイデア出しや企画をするのは、実際の地域住民が主であるべき（地域住民が中心となることで継続的に活動が続く）

スコープを絞って、次につなげる意識と準備が重要。学生側は、実際の認知症の方へのサポート活動に参加しづらい反面、一歩引いた目から長期的なビジョンを建てうることを認識⇒「子ども向けの啓発イベント」

学生チーム内、地域住民内、自治体間で、定期的にコミュニケーションが取りづらいう中で、**認知症のかたを地域で支えるという目的**をそれぞれがしっかりと意識できるようになった

FS初年度の振り返りとしては、行政、住民、医療法人といった、それぞれ認知症に関係しながらもつながり切らなかった関係者と交流することで既存の行政、地域の枠組みを超えた企画のきっかけになりえたことが大きい。

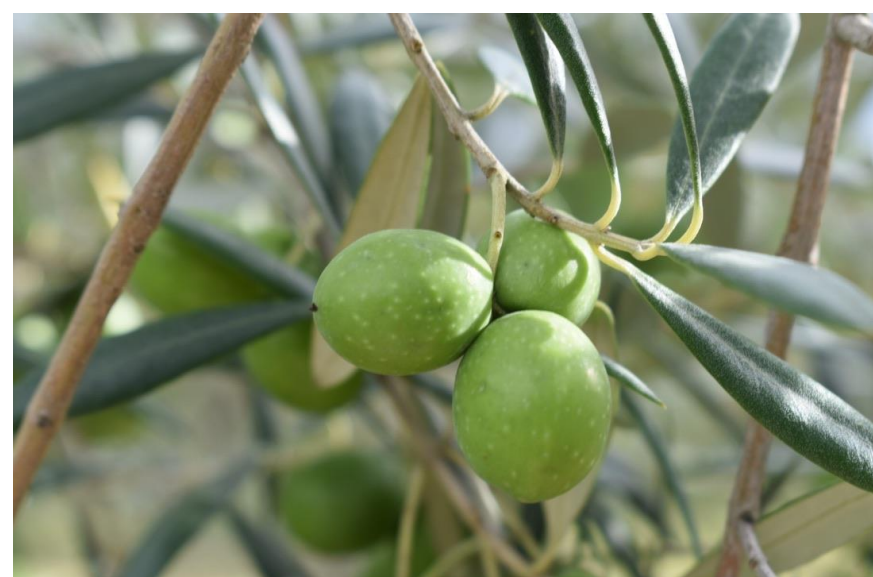


香川県土庄町チーム ～高校生とのワークショップとアートマップ作り～

宮下祐真、猪原皐良、竹内彩乃、盛田忍之、前田誠磨

1.土庄町の紹介

香川県小豆郡に属する人口約13,000人のまち。瀬戸内海で二番目に大きい島である小豆島をはじめ、豊島などの島を合わせて構成される。私たちが活動拠点とした小豆島には、日本3大渓谷の一つである「**寒霞渓**」、島に集積する**アート作品**、食の名産品である**オリーブ**や**醤油**など、多様な魅力が詰まっている。



オリーブの実



二十四の瞳映画村



アート作品『はじまりの刻』

2.活動テーマ・概要

- FS土庄町の活動テーマは、
- ①第一回の現地活動で**高校生と交流**を行うこと
 - ②自分たちでテーマを設定し、3月にテーマに対する**政策提言**を行うこと



FS土庄町は、9月に**高校生とワークショップ**を実施。9月以降、土庄町の課題を踏まえ、移住者増加のために高校生と島の**アートマップ**の作成に取り組んできた。

①高校生とのワークショップ



9月の第一回現地活動で、小豆島中央高校の1年生と実施。このご縁を生かし、2月以降ワークショップを通じてアートマップの作成に協力してもらっている。

②アートマップの作成



町の根本課題である人口減少に対応するため、移住者を増加させる方法について議論。移住のきっかけになっているアート観光に焦点をあて、島にないアートマップを作成中。

3.年間スケジュール

5~6月

チームビルディング
土庄町とのMTG

7~8月

高校生とのワークショップ準備
・テーマ決め、高校の先生とのMTG等



9月

第一回現地活動(9/12~9/15)
・高校生とのワークショップ（4 参照）
・課題調査

10~11月

土庄町の課題整理（5 参照）
政策提言に向けたテーマの洗い出し

12月

第二回現地活動(12/14~12/15)
・仮説検証のためのヒアリング
・政策提言に向けたテーマ決定
（アートマップにテーマを決定）

1~2月

アートマップ作成に向けた準備
各所との調整
高校生とオンラインでアートマップ作り開始

3月

第三回現地活動(3/9~3/12)
・高校生との対面アートマップ作り（6 参照）
・現地報告会

アートマップ完成
学内報告会



4.高校生とのワークショップ

9月12日・13日に、**香川県立小豆島中央高校**の特進クラスの1年生と、メンバー5人がそれぞれ考えたテーマに分かれてワークショップを実施



【実施概要】

9月12日・13日に、香川県小豆島中央高校の特進クラスの1年生と、メンバー5人がそれぞれに考えたテーマに分かれてワークショップを実施

- ・生徒約30人と総合的な学習の時間の一部として実施
- ・2日間計6時間の時間をいただいた

【ワークテーマ】

高校生が**小豆島の魅力や課題**をあらためて知るきっかけになるようなテーマを選択

（例）

- ・小豆島の好きな場所をWEB上にマッピングして島外の人に伝えよう
- ・小豆島の交通の課題について考えよう など

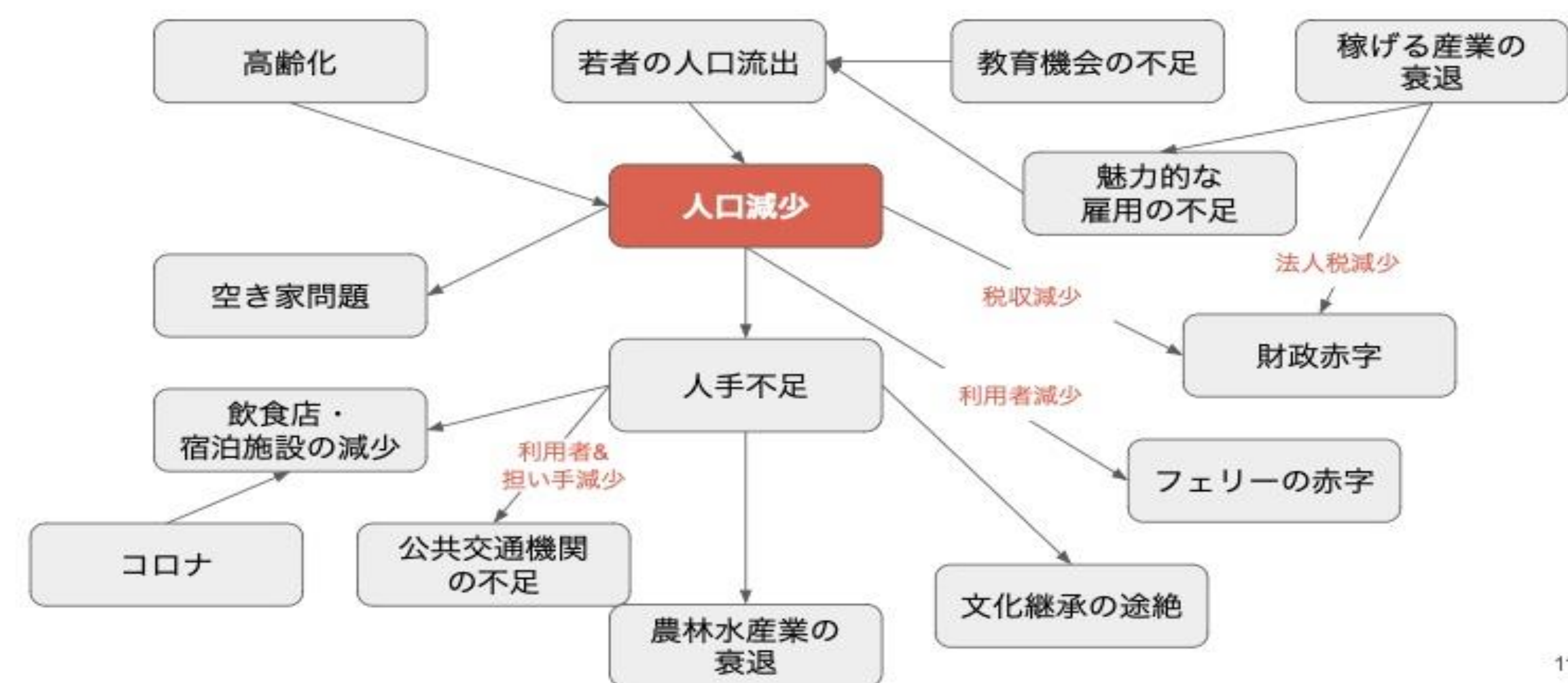


【実施結果】

- ・どの生徒も**積極的に参加**し、想定以上のアウトプットを発表するまでに至っていた
- ・高校生の持つ視点から、**島の魅力を知るきっかけ**になった

5.土庄町の課題整理

政策提言に向け、土庄町の課題を整理し、**人口減少**がさまざまな課題を引き起こしていると推定。（下図参照）



【私たちにできること】

島外の人には伝えきれていないような**土庄町や小豆島の魅力を知ってもらい**、興味を持ってもらうことで、移住者を増やすこと

【島のアートの現状】

アートきっかけで観光し、移住先として選んでくれるケースが多い一方でアートの魅力は、**アートを目的としない観光客には伝わりづらい**

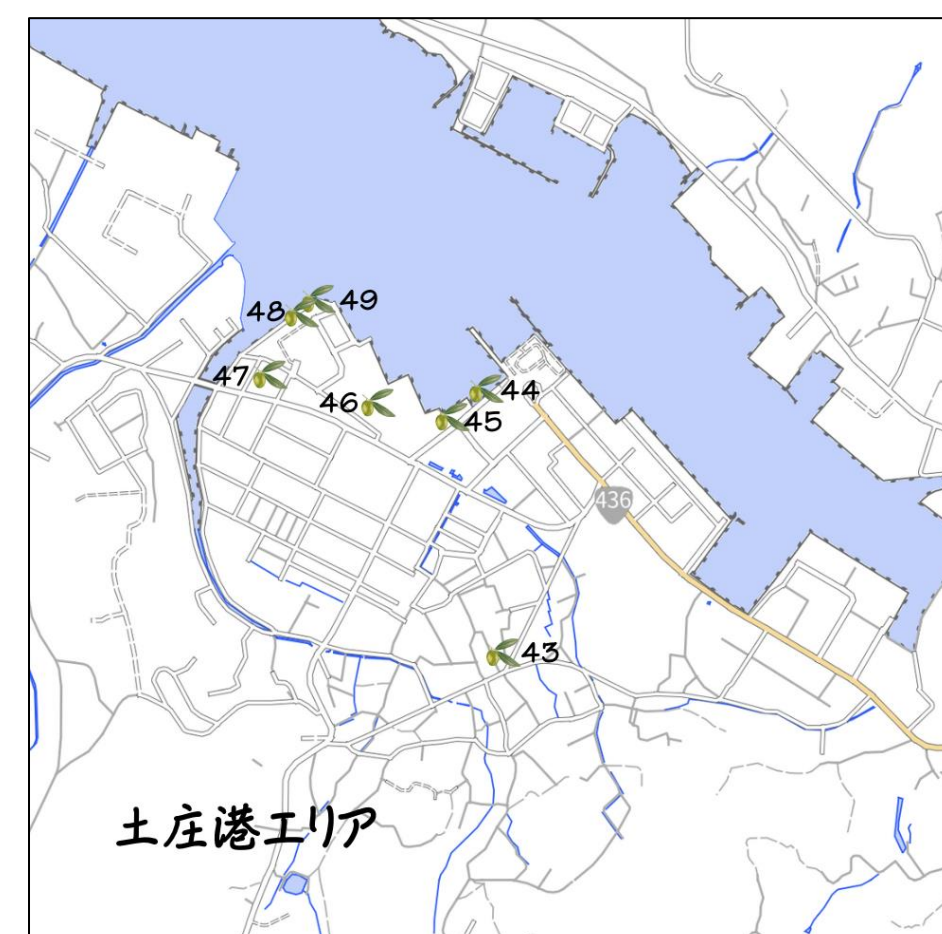
⇒政策提言のテーマを**アートマップ作り**に決定

6.アートマップの作成

島のアートを一覧できる地図がないことを踏まえ、**アート作品・美術館・ギャラリーを一覧で見ること**のできる地図を作成。9月のワークショップで知り合った小豆島中央高校の**高校生と協働**した。

【工夫】

- ・アートの密集地に関しては**エリアマップ**を作成。（右図）
- ・バスの時刻表、簡易的な路線図、レンタカーの場所なども記載。



はじまりの刻 4

夕陽を浴びて島とともに生きる命の象徴 己の記憶は朧げにはじまり、いつの日かこの世に存在していることに気づく。この世のすべては一期一会。その時、その瞬間の出来事。いまははじまりのとき。



三宅 之功(みやけ しこう)
地元の高校生のイチオンポイント
夕陽の時間帯に見ると絶景です！

【アートの紹介】

- ・アートにこめられた**思いや背景**を知り、アート観光を楽しんでもらえるように工夫
- ・**高校生のおすすめ**ポイント付き

本日実物を持ってきたので、ぜひ手に取ってみてください！
私たちの活動を支えてくださった全ての方へ、本当にありがとうございました！

高知県土佐市
Teen's market & 地域創生士

Teen's market

対象：土佐市の中学生
地元企業と連携し商品開発
ゴール→地元の魅力発見
ビジネス学習
* 広報、教材作成を実施

地域創生士

対象：高知県の高校生（主
に商業高校）
地元企業の商品販売
* 視察・意識調査・提言

私たちの目標設定 学生が主体性を持って参加できる活動を！

課題

①活動の入りやすさ

中学生が関心を持ちやすいようハードルを下げた広報
単発による参加のしやすさ追求

②主体性の不足

まず「やらせてみる」こともある程度は有効？

③成功体験の不足

私たちにできること

①場の提供

学生目線での教材作成やアドバイス

②ロールモデルの提示

大学生という存在を親しみやすく
挑戦のハードルを下げる

③成功体験の提供

一度たのしかったという経験は次につながる

長崎県 佐世保市 宇久島

～ マリンアクティビティーと「挑戦」の島～

〈現地活動紹介〉

宇久島



小値賀町



新上五島町



東京 都内



〈課題と施策提案〉

1. 五島列島北部地域への移住促進策

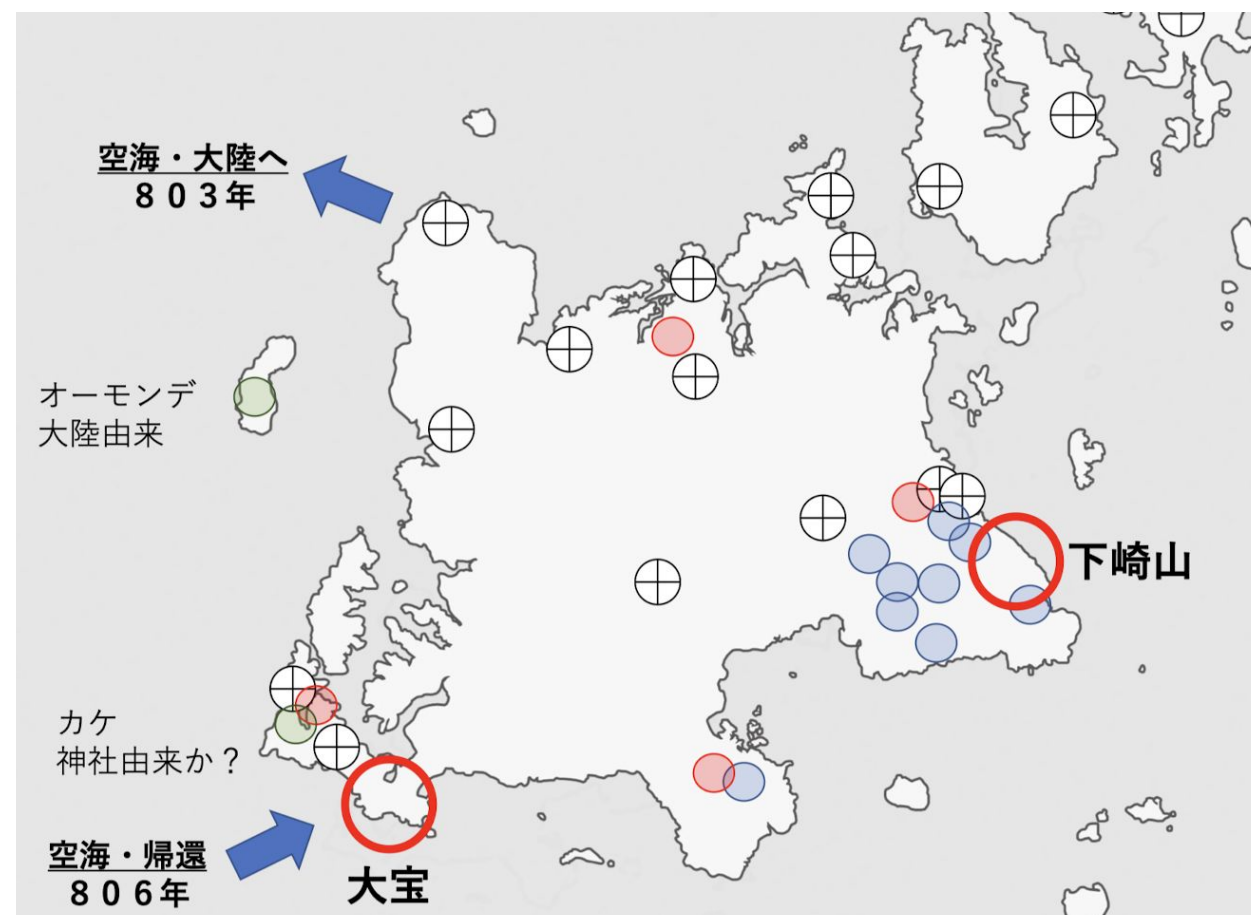
- ・移住につなげる前段階として、まずは島の存在を「知ってもらう」ことが肝要
⇒旅行会社や佐世保市のパンフレットへの掲載を通し、佐世保や五島を訪れる人の旅行需要を喚起
⇒観光タクシーの導入、パックスツアーの実施、観光モデルプランの提案
⇒ロケツーリズム促進、そのための観光地の整備とアピール
- ・第二段階として、島への移住・定住につなげる施策へ
⇒移住体験ツアーの企画、特に「職」に重点を置き、島での暮らしを具体的にイメージできるもの
⇒タクシー事業の活性化（観光・住民・事業者三方にメリット）
⇒高齢者や島留学の学生を対象にした、配食プログラムの実施・拡充

2. 佐世保市宇久地域の活性化

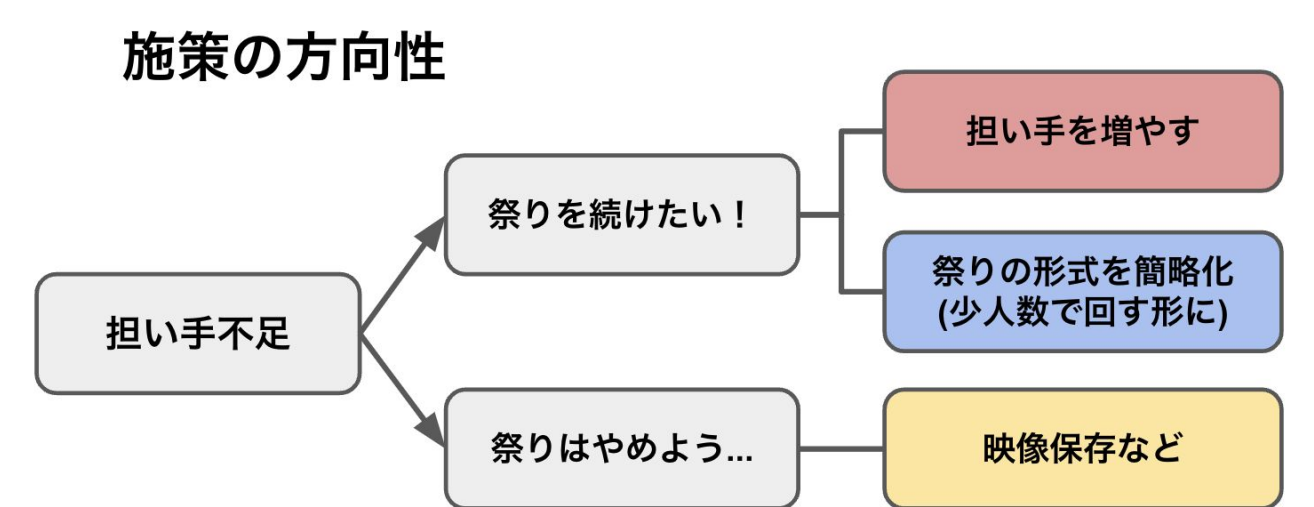
- ・「宇久島離島活性化協議会」の財政健全化が、喫緊の課題
現在の財源は協賛金と繰越金の取り崩しで赤字続き、イベント開催は数年で困難になる予測
⇒支出削減案：花火大会を維持しつつ支出削減を図るため、小値賀の花火大会と隔年開催
花火の当日は船の臨時便で島民を輸送し、交流促進を図る
⇒収入増加案：ECサイトの拡充による、島外への販路・収入源の拡大
△ガバメントクラウドファンディングは、成功可能性や継続性に疑問があり、急場しのぎでしかない

発表者：
絹川雛子(農学部4年)、水島愛佳(文学部4年)、乙川文隆(法学部3年)、菊池悠真(法学部3年)、藤川由衣(文科一類2年)

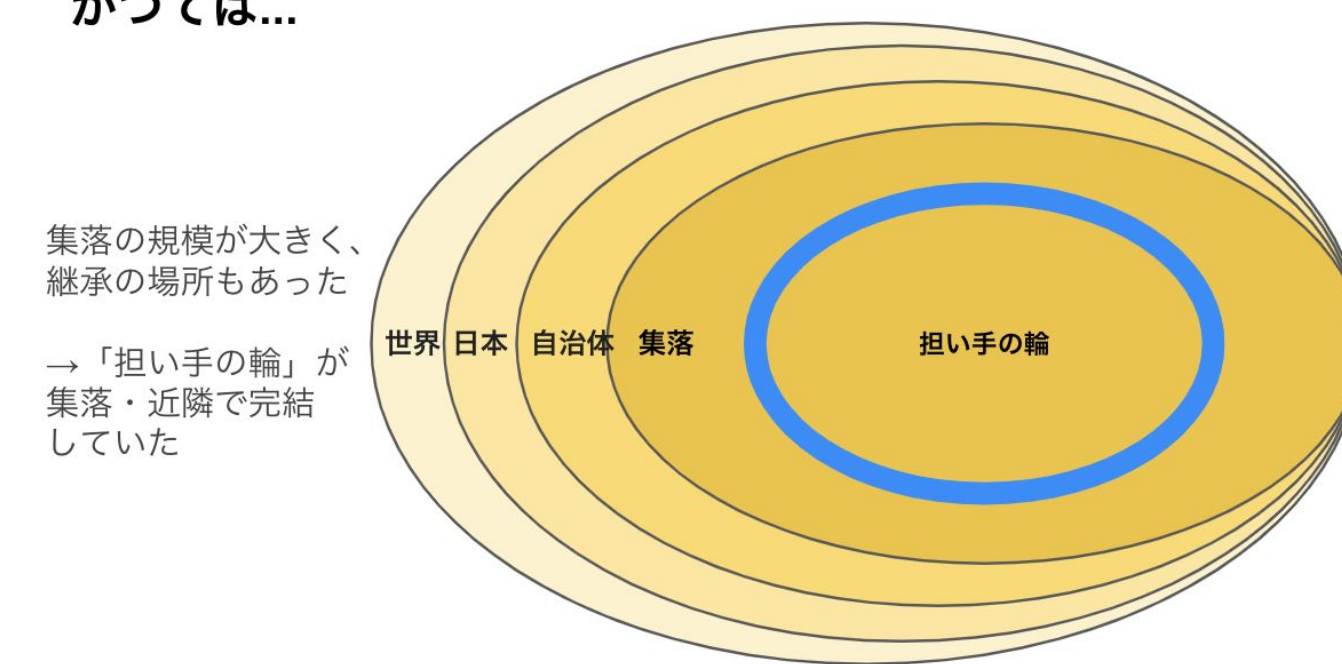
- **2つの「奇祭」**
 - ― **大宝・砂打ち**
 - 35年前 大宝小・中学校閉校
 - ― **下崎山・ヘトマト**
 - 2024年3月 崎山小学校閉校



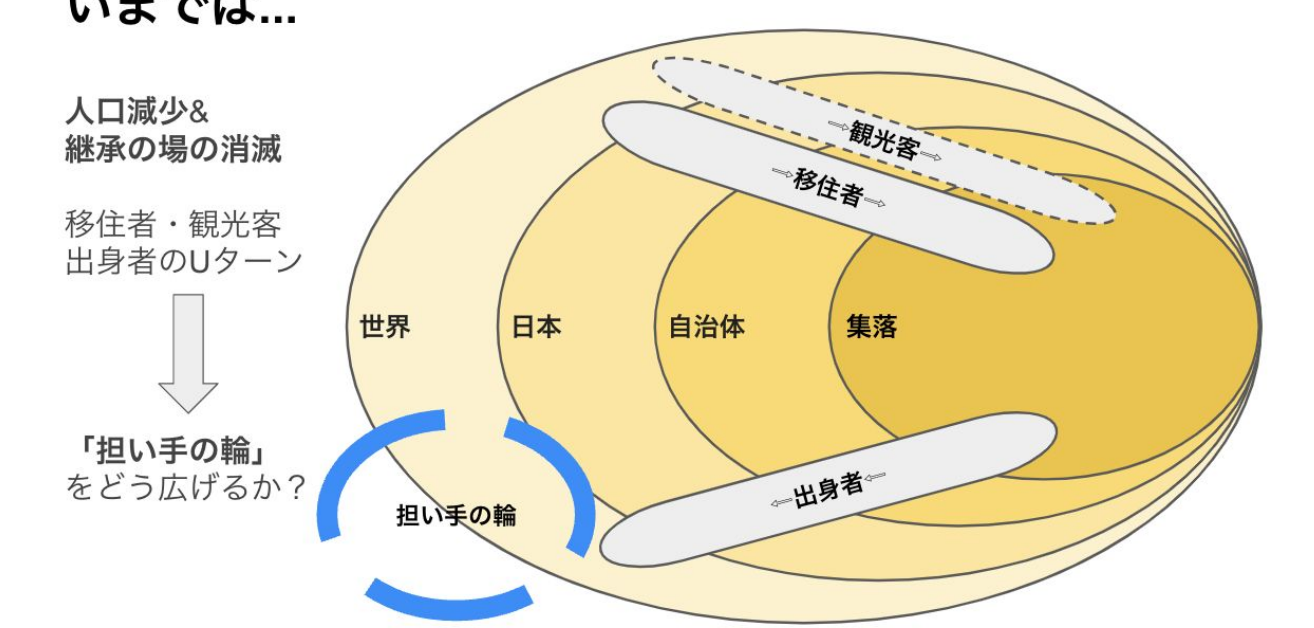
- 担い手を増やすためには、
担い手の輪をどのように
広げていくか今話し合う
ことが必要ではないか？



かつては...



いまでは...

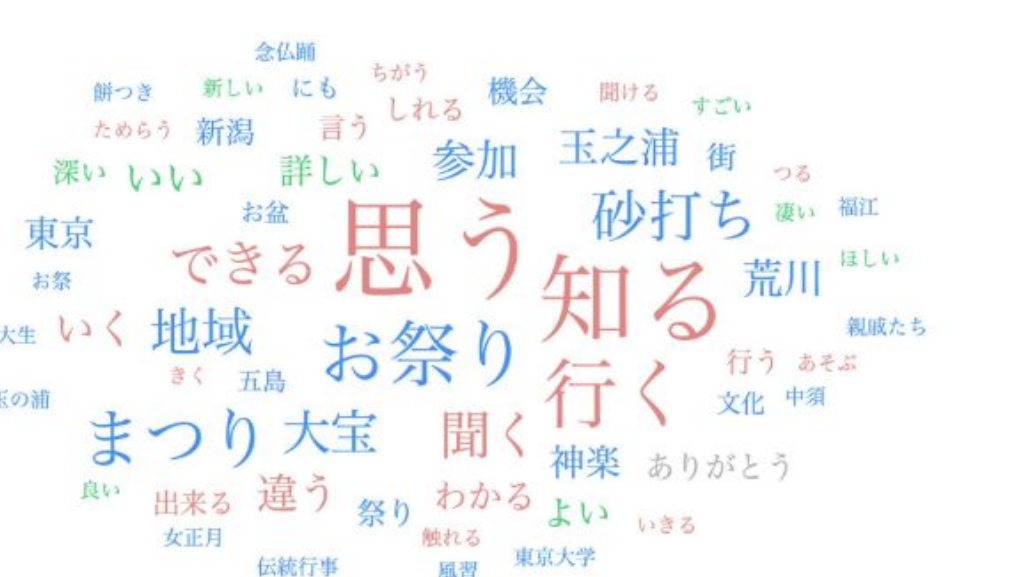


- **聞き取り調査**
 - － 地区の祭りについて
 - ・ 下崎山地区の皆様
 - ・ 大宝地区の皆様



- ワークショップ

- 知っている祭りについて
 - ・ 玉之浦小中学校
 - ・ 福江小学校



● 市内視察

- 福江島
- 奈留島(二次離島)

- **ヘトマツの1日(1月第3日曜日)**
 - 子ども相撲(中学生男子による相撲)
 - 羽つき(新婚女性による羽つき)
 - 綱引き(青年団と消防団の対抗戦)
 - 草履
 - ・ 草履を担いで神社まで奉納する。
 - ・ 道中見物の女性が胴上げされる。
 - 玉せせり
 - ・ 体に「ヘグラ」と呼ばれるススをつけた若者が菓玉を奪い合う



● 祭りの準備

- 藁を編んで祭りの道具(草履、網、藁玉)を作る
- 青年団(15名程度)を中心に、消防団や地域の人も協力

Q.伝統文化継承にはどのような問題が生じているか？

A. 担い手不足

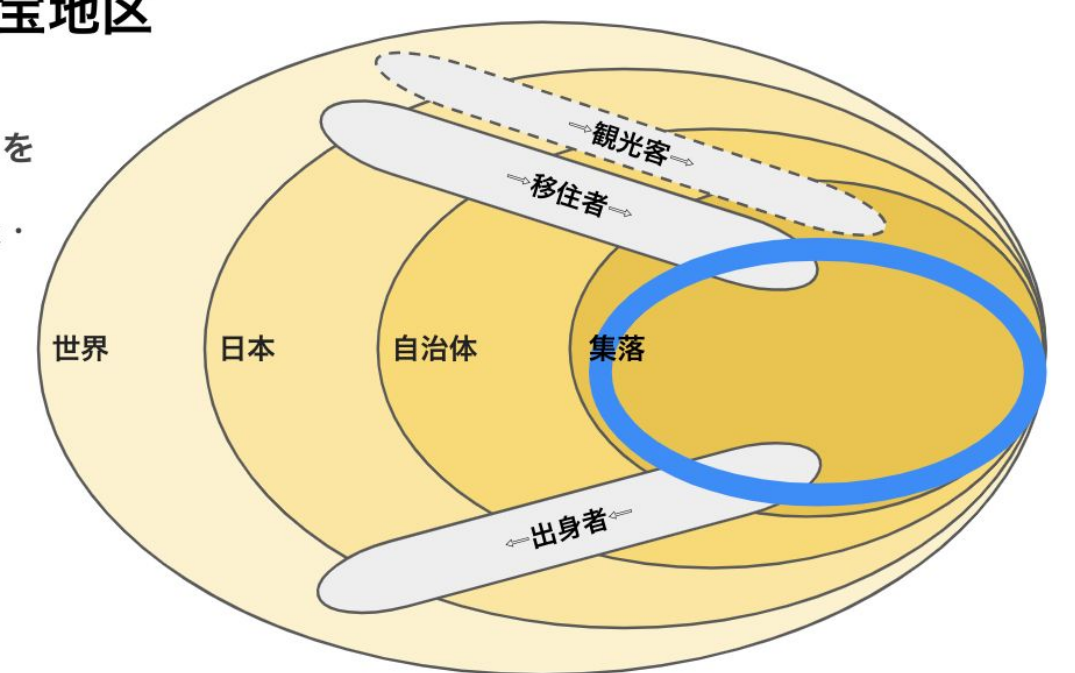
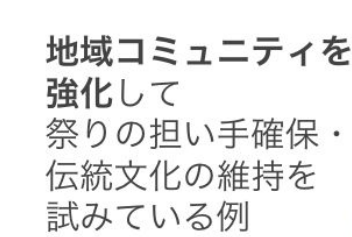
- **地区全体での 人口減少が進んでいる**
 - － 下崎山地区・ヘトマトについてのお話より
 - － 準備を担う若い世代が特に減っている
- **「地区」単位での 継承の場が失われる**
 - － 小学校で祭りについて話すワークショップ実施後、「他の地区のお祭りを初めて知った」という感想が多かった
 - － 廃校・統合が進み、伝統的なお祭りを知らない子も多い

● お祭り見学

- 大宝夜神楽
- 大宝砂打ち

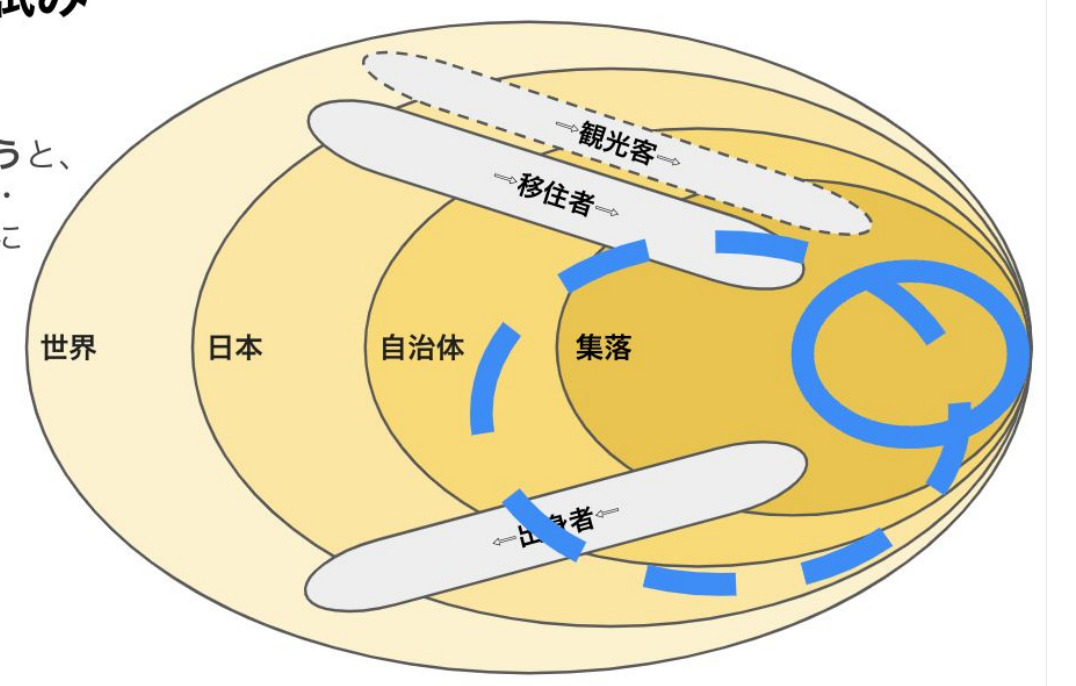
● 聞き取り調査

- **バラモン風職人**
 - 平山絵美さん
 - 今村光洋さん
- **地区の祭りについて**
 - 奈留島の皆様
 - 下崎山の皆様



奈留島での試み

神輿の担ぎ手の確保に向けて担い手を拡大しようと、五島市内の出身者・奈留島内の移住者にアプローチを試みている例



- 「担い手を増やす」ことについて話し合う場として、**ディスカッションを実施**
 - － 大宝や下崎山、市役所の方々に加えて、伝統文化に関心を寄せる様々な方々が参加
 - － 自分の地区のお祭りと「担い手を増やす」ことについて一人一人が話していく



- **ディスカッションから見た祭りの意味**
 - 自分の地区のお祭りを大切に思っている人がたくさんいる
 - 祭りの準備を通して地区の繋がりが生まれている
 - ・ 綱引きの綱を自分たちで編むのではなく買うようにしたら、綱引き当日の参加者が減ってしまった地区の話
- **ディスカッションから見た課題**
 - 「祭り」が人が集まる機会になっているため、話し合う機会を別に作ること
 - 様々な世代の意見を聞くこと
 - 祭りが開催される意味を伝えていくこと
 - 二次離島で島外から人を呼ぶことの難しさ

消えゆく草原を未来に残すために

西野清花、中山泰地、松原彩愛、松尾莉彩子

阿蘇と草原について

▼阿蘇とは

・世界有数のカルデラ地形の中に、約4万7千人が住む地域。カルデラの中央に阿蘇五岳がそびえ、周囲を外輪山が取り囲む。

▼阿蘇の草原

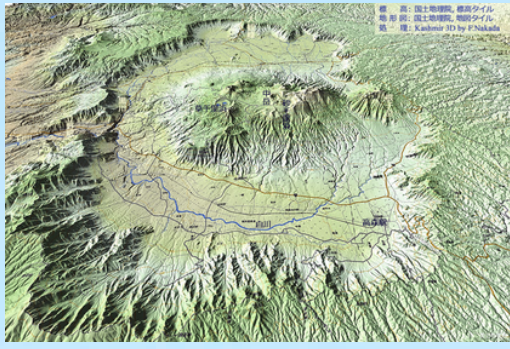
- ・日本一の面積（約22000ha）を誇る。
- ・日本の気候では自然草原は存在しないので、千年以上前から、**代々人の手によって管理・維持されてきた**。

▼草原の管理

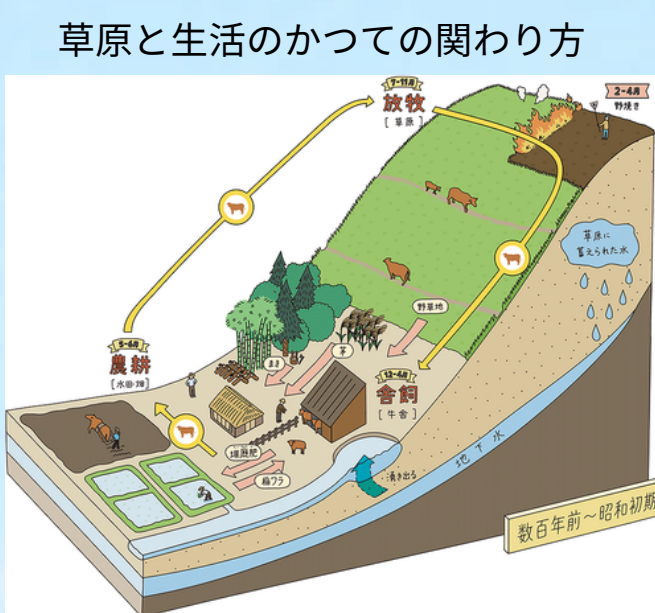
・農耕や畜産を営むライフサイクルの一環として、春には**野焼き**、5～10月にかけて牛や馬の**放牧**、夏～秋にかけて採草が行われる。

▼草原の恵み

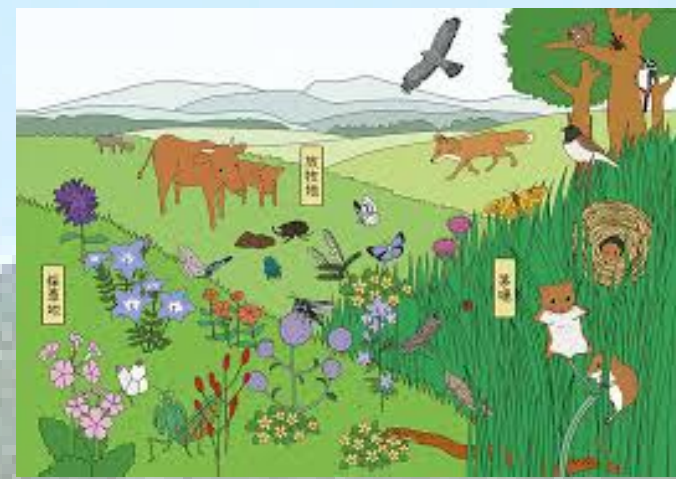
・美しい景色のみならず、生物多様性、「**九州の水がめ**」と称される水源涵養機能、減災、炭素固定など、様々な恵みをもたらしている。



上から見た阿蘇地域

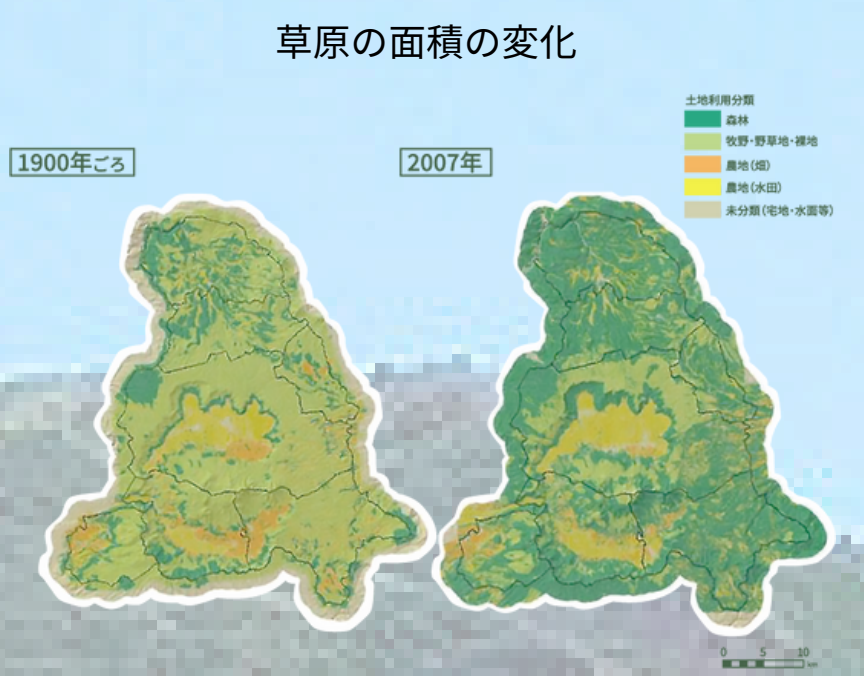


草原に住む様々な生き物たち



▼そんな阿蘇の草原は、今、**消滅の危機**に瀕している！

- ・この100年で、面積は**半分以上**に。
- ・**ライフスタイルが変化**した結果、生活における牛や馬、草の必要性が薄れた。
- 草原を維持しても、**利益を生み出せない**...
- ・少子高齢化・過疎化により、草原維持の**担い手も減少**。
- ボランティアで人手を補填している状態。
- ・このままだと、**30年後には約6割の草原が失われるかもしれない**...



草原再生に向けた取り組みを行う「阿蘇草原再生プロジェクト」のロゴ



▼草原を守るために

・**世界文化遺産登録**に向けた取り組みや、あか牛農家への支援、野焼きボランティアの育成、阿蘇草原再生募金など、草原に関わる様々な人々が草原を守るべく奮闘している。

FSの活動の流れ

第一回現地活動



- ・大観峰・草千里訪問
- ・牧野組合等への現状の聞き取り
- ・刈払機講習会への参加
- ・世界文化遺産登録に向けた取組みの説明

活動方針の決定

草原維持における現状の課題：

「認知・人手・資金の不足」

- ・そもそも草原の危機を知らない人が多い
- ・人手不足でボランティアに頼っているが、資金不足で有償化も難しい
- ・草原管理の省力化やあか牛農家の支援にも資金が必要

→「**認知度向上**」と「**資金集め**」を同時に達成でき、**実現可能性**も高い施策として、...

人目を引く募金箱の設置

を計画

第二回現地活動



- ・募金箱設置に向けた聞き取り調査
- ・試作品の設置（阿蘇火山博物館、道の駅など）
- ・ラジコン草刈り機講習会の懇親会への参加
- ・阿蘇の景観・地質の視察

第三回現地活動



- ・設置済募金箱の経過調査（+ポスター等の新規設置）
- ・現地報告会
- ・県への施策提案
- ・野焼きの見学（草千里）

施策提案

①募金

▼募金箱とポスター

- ・現地活動で設置した募金箱とポスターを今後も**継続的に**運用。
- ・阿蘇火山博物館の草原に関する展示スペースや、観光客が多く集まる飲食店、空港などに、新たに募金箱やポスターを設置。
- ・**外国人観光客**に向けた多言語対応を進める。

▼ウォーターサーバー×募金

観光地や公共施設にウォーターサーバーを設置し、草原維持への募金を募る。

→草原が**水を供給する重要な資源である**ことを、観光客や熊本県民に実感させ、自分事化させる。

- ・既に取り組みが行われている阿蘇火山博物館に加え、空港や道の駅、熊本駅などにも新たに設置。
- ・ボトル型サーバーを使用or湧水や井戸水の飲み場を活用。
- ・限定デザインのマイボトル販売による経費補填。

阿蘇火山博物館のウォーターサーバー



道の駅あそ望の郷くぎのにある井戸水



②認知拡大

▼水道ステッカーの設置

観光地や公共施設のトイレなどの水道の蛇口に、ステッカーを貼る。
→「今使っている水が草原の恩恵であること」を肌で感じさせ、草原維持の重要性を啓発する。

- ・節水の文脈では実施例あり。

ステッカーのイメージ図

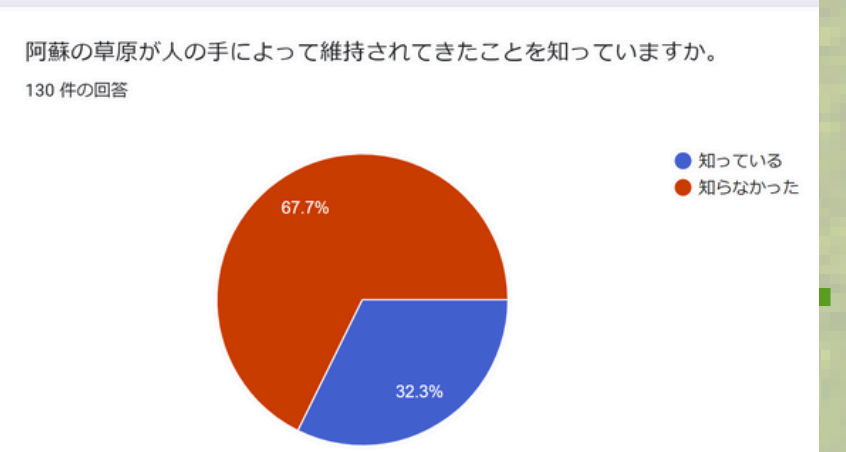


▼看板の設置

大観峰や草千里といった観光地化された草原に、**草原に関する看板がない**。

→草原の成り立ちや現状を説明する看板を設置することで、観光客の草原への認知度を高める。

- ・「道の駅あそ望の郷くぎの」では、看板さえ製作すれば設置可能。



学生が実施したアンケートでは、およそ7割が「草原が人の手で維持されてきたことを知らない」と回答。

③草原の収益化

草原によって生み出されたサービスに観光客がお金を払う、**現代版の草原収益化システム**を構築する。

→草原維持活動への**対価を生み出し、担い手を増やす**。

▼具体的な施策

- ・**あか牛**
あか牛の価格に上乗せして草原維持に代金を支払う。（参考：「あか牛ファンD」）
- ・**草原自販機**
阿蘇の水を使う企業の自販機の売上の一部を草原維持にあてる。（参考：募金協賛型自販機11台設置済（2022年））

・**草原アクティビティ**
草原を活用したアクティビティの料金に上乗せする。

・**景勝地の入場料**
観光地化された草原への入場料を導入したり、駐車料金に上乗せする。

・**草原税**
→宿泊料金に上乗せして草原維持に代金を支払う。（くまもんパスポートを活用？）

④教育

▼地域の子供への草原教育

・阿蘇草原保全活動センターやくまもとSDGsミライパーク（阿蘇くまもと空港内）、地元の小中高といった教育施設に、ポスターと募金箱を設置。
→**将来、草原維持活動に関わるきっかけ**をつくる。

・学校の総合の時間などで、募金箱やステッカーをつくるワークショップを開催。
→募金箱や掲示物が継続的に運用される**地域自走システム**をつくり、草原教育も広げていく。

宮崎県諸塚村

メンバー：市川 大瑚 若林 玄基 関口 昌一郎

諸塚村の基本情報

- 宮崎県北部に位置する山間の村
- 四大産業：林業、椎茸、畜産、茶
- 人口：1,304人 / 584世帯（R6.12.1時点）
- 面積：約187.6km²
- 村の約95%が森林（日本有数の森林率）
- 面積あたりの林道密度日本一
- 森林認証制度（FSC）を国内で先駆けて取得
- 針葉樹（主にスギ）と広葉樹（クヌギ等）が混在する景観「モザイク林」が有名



見えてきた課題

1. 森林の多様性の減少（スギ林の比率増加）⇒ シイタケ栽培に悪影響
2. 人口減少とそれに付随する後継者不足
3. 娯楽の不足
4. 移住者の「ひとり時間」の不足

その他

- 産業の固定化
- 生活施設（ケアホーム、スーパーなど）の不足
- ファーストペンギンの不在 など

政策提案①：東大FS生の森の活用

- 東大FS生の森とは
 - 前年度のFS生の提言によって作られた森
 - 「関係人口を創出したい」という村の意向
- 具体案
 1. 毎年異なる樹種の植樹をして多様性の森を育む
 - 課題1：「森林の多様性の減少」の解決につなげる
 2. 林業体験活動に絡めた記念品の作成
 - FS生がお土産を作成
 - FS生の森での枝打ちの作業で出た木材を使用
 - 活動の記憶に紐付いた材料を使用して記念品を作成して残すことで、関係人口としての結びつきを強める
 - 小中学生とFS生が合同で枝打ちの枝で絵馬を作成
 - 次年度以降のFS生と諸塚の小中学生の交流の契機にしたい

政策提案③：農業系サークルとの連携

- 具体案
 - 諸塚村から椎茸の原木をサークルへ送り、椎茸を栽培してもらう
- 諸塚村の利点
 - 農産業に関心を抱いている若者への直接アピールにより、より深い関係人口を築ける
 - 諸塚の椎茸の宣伝と、くぬぎの需要の掘り起こし
- サークル
 - サークル単位で扱うことの難しい林業問題への切り口となる

諸塚村側からの要望・前提

- 課題の設定はされていない
- FS生による主体的な発見、提案が求められる
- 村民の方との交流や村の産業の現場での体験を通した課題設定を期待
- 昨年度にFS生が構想した「東大FS生の森」の活用方法の検討も望まれる

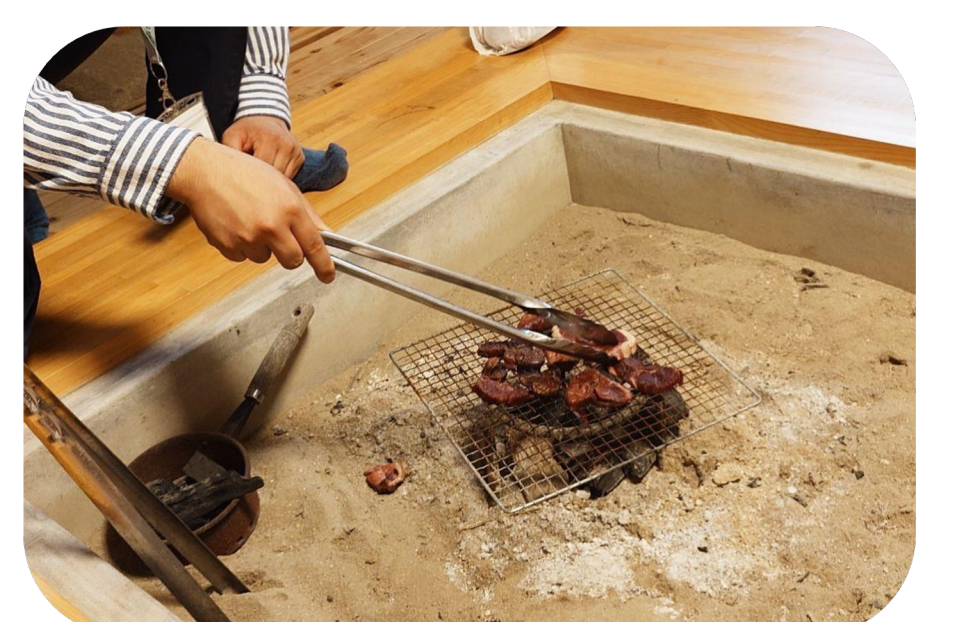
現地活動

- 第一回（9/13～9/16）
 - 木材加工センター訪問
 - 椎茸の生産場、選別場訪問
 - 園芸団地見学
 - 東大FS生の森訪問
 - ぎやあな祭参加
 - 農泊体験
- 第二回（11/2～11/4）
 - 奈須隆生さん（林業家）へのインタビュー
 - セツ山祭り神事、直会への参加
 - 田原さん（宮大工）宅で木工体験
 - 旧セツ山小学校の見学
- 第三回（2/28～3/3）
 - 甲斐昭兵さん（コーヒー豆販売所オーナー、デザイナー）インタビュー
 - 岩切真道さん（金鶏寺副住職）インタビュー
 - 桂神楽見学、直会への参加
 - 園芸団地見学
 - 東大FS生の森の植生調査
 - 現地報告会



政策提案②：旧セツ山小学校の利活用

- 旧セツ山小学校とは
 - 2022年3月31日をもって145年の歴史に幕を閉じた
 - 廃校の活用について検討中
- 具体案
 1. 宿泊施設として活用
 - グランピング施設を想定
 - FSC認証材を使用したおもちゃの貸し出しや工作体験
 - 椎茸、ジビエ等諸塚の特産品をバーベキュー具材として提供
 - 村内外の宿泊施設との差別化もポイント
 - スポーツ
 - 立地（アクセスの悪さを逆手に取る）
 - 一日一組限定
 - 校舎を活かす
 - まず世間の方々に諸塚村を認知してもらうことから始め、将来的に課題2：「人口減少とそれに付随する後継者不足」につなげる
 2. 音楽室を改修してカラオケ施設とする
 - ニーズはあるはず（ぎやあな祭でのカラオケ大会など）
 - 小中学生が放課後に集える場所としても想定
 - 課題3：「娯楽の不足」の解決につなげる
 3. 小さな教室を改修して一人で過ごせるようにする
 - 一人でゆっくりしたいというニーズに応える
 - 防音性能を追加して一人カラオケに対応することも検討
 - 課題4：「移住者の「ひとり時間」の不足」の解決につなげる



鹿児島市桜島地域

～DX活用等による交通弱者の食・医療・社会活動等の機会の拡大～

田中 恭輔 千原 顕勝 土岐 弦太郎 中尾 友 戴 雨希

1.桜島の現状

・人口...約3,600人 老年人口比率...49.5%

・島内全体が急な斜面地

→歩くのも大変な地域

・島内の公共交通機関

○タクシー...僅か2台

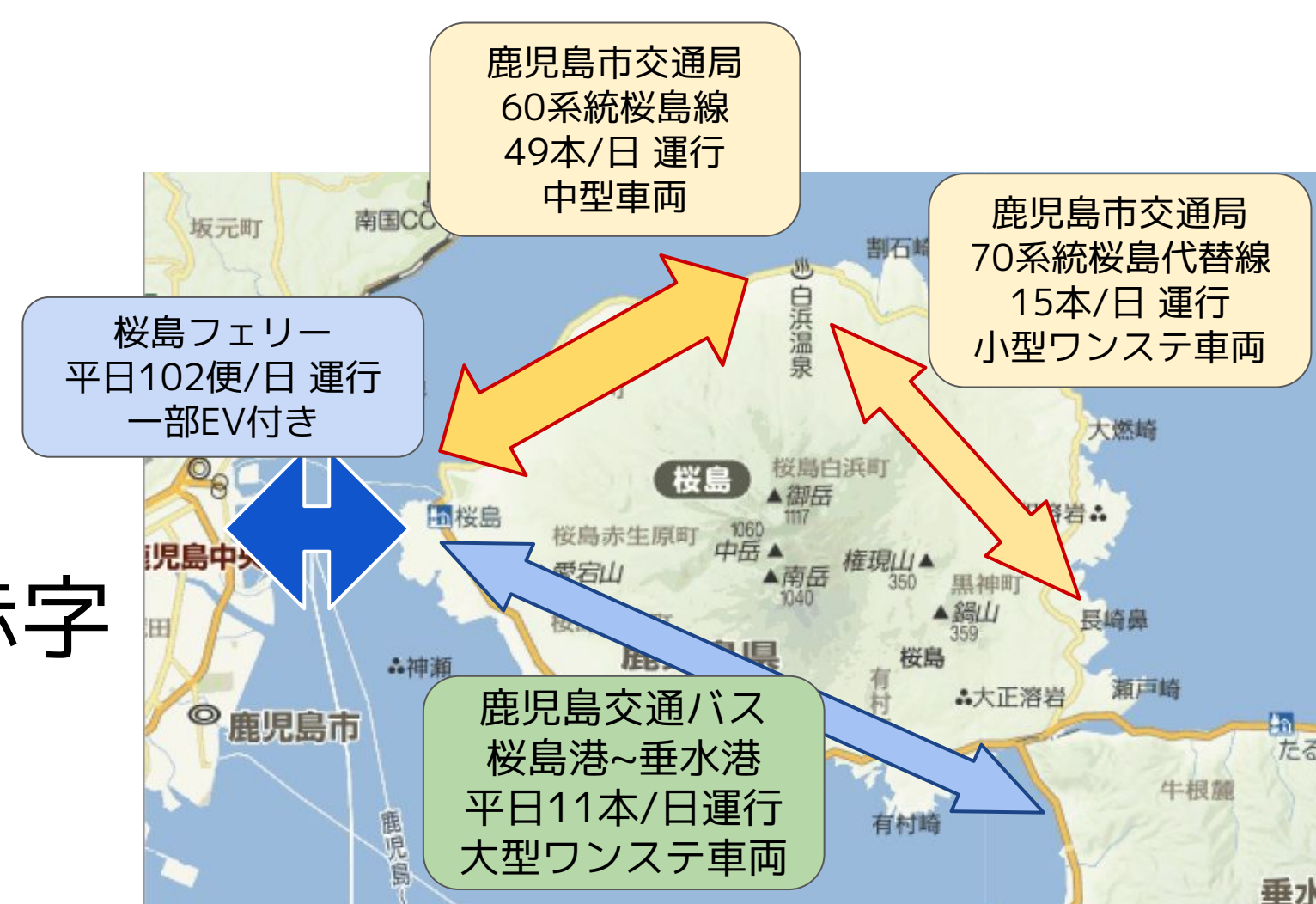
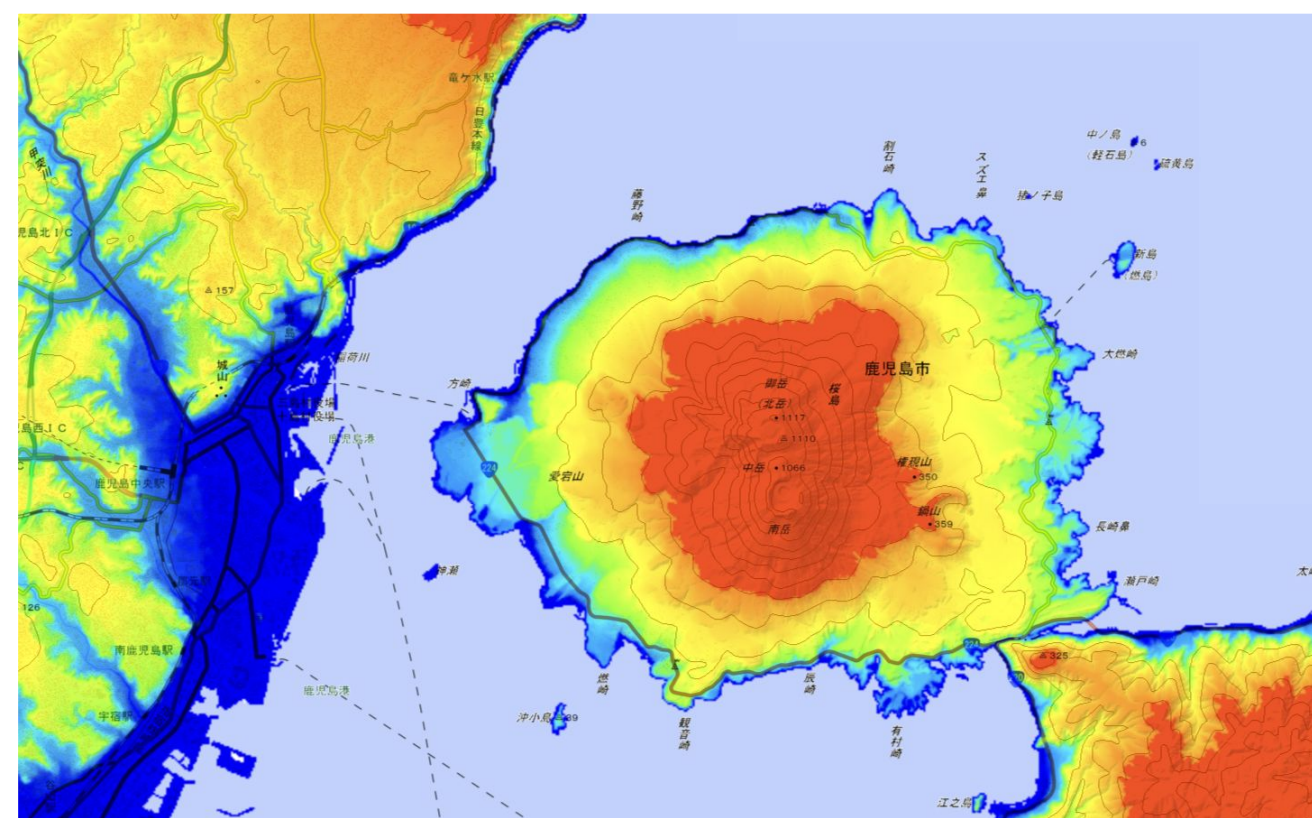
○路線バス...営業係数 2,537

年間5,000万円規模の補助金

1日約220人の乗車

○フェリー...年間3.5億円の赤字

深夜運航の休止



2.第1回現地活動(9/22～25)

活動内容

- ・島内の公共交通を実際に利用
- ・複数の集落をまわり現状を把握
- ・様々な島民の方へのインタビュー



現地住民の声

- ・車がないと生活できず免許が返納できない
- ・バスの本数が少なく、坂道を歩くのも大変で利用しづらい
- ・誰かに電話を掛けて送迎してもらうのは心理的抵抗
- ・ドア to ドアの交通機関がほしい

「車が運転できなくなる」＝「自由に外出できなくなる」

多くの人の行動に制約が伴っている

4.公共交通機関の改善

1.市街地への乗継時刻表・公共交通MAPの配布

2.待合環境/案内システムの改善

3.60系統の桜島港以南ルート統一

→「一見さんお断り」状態を脱し、「使おうと思えば使える」ものにする！



5.第2回現地活動(2/16,17)と今後の展望

現地報告会の実施

- ・鹿児島市役所にて鹿児島市長への表敬訪問
- ・桜島公民館にて市職員や現地住民への報告会

今後の展望

- ・パッケージ化やDX活用を行い市全体へ普及
- ・やりがい、申し訳無さなどの心理面の検討



現状

- ・1ヶ月で約20件の利用,運転手は約35人(30～70代)
- ・運転手の「ボランティア」で成立→**持続性に懸念**
- ・新たなシステムなので**住民に広まりにくい**

基本改善案

A.住民に向けたPRの活発化

- ・予約方法、料金、エリアなどを明確化
- ・Web、広報誌、チラシでの宣伝など
- ・現地調査でも存在を知らないという声がある

※ 三重県紀北町の自家用有償旅客運送「えがお」の広告。PRを積極的に行い、1日20件近い運行がある。



B.アンケートの実施と反映

- ・人口3,600人の地域なので、全員のニーズを叶えやすい

～調査項目～

- ・何を目的にどこへ出かけるか/出かけたか？
- ・現在は何を使って移動しているか？
- ・何円までならライドコミュニティを使いたいのか？ など...

C.ドライバーの確保

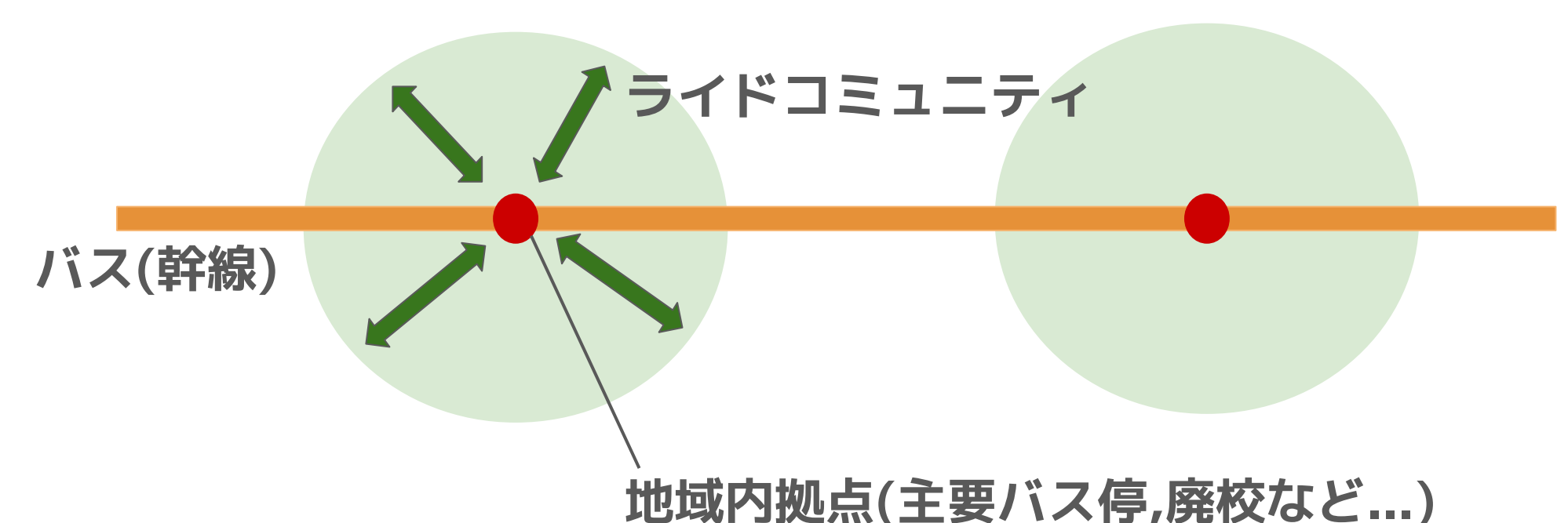
- ・地区/曜日ごとにドライバーを募集し、シフト制を導入
- ・ライドコミュニティでは「地域内輸送」を担い、できる限り

路線バスの利用を誘導して**共存を図る**

→近距離の送迎が中心、ドライバーの負担減少

○乗客の心理的抵抗(申し訳無さ)軽減

○上手く広がれば「コミュニティ」間で解決できる



鹿児島県鹿児島地域

～ゲームアプリの周知と関係人口の創出～

ゲームアプリ「うたた往時の懐かしや」と現状の取り組み

▶ 「うたなつ」とは？

- 目的は、妙円寺詣りや鹿児島地域の歴史や観光地などに興味をもってもらい、**妙円寺詣りの参加者や鹿児島地域への観光客を増やすこと**
- ターゲットは主に**10代～30代の女性の乙女ゲーム（ソシャゲ）**

▶ 「うたなつ」の特徴：行政IP

▶ 「うたなつ」の現状の取り組み

- Xでの発信
- 現地での**声優イベント**の開催
- TGS2024への出展



現地活動の様子と簡単な紹介

2024/9/20, 22, 23 第1回現地活動

9/20(金)

- まち歩き観光ステーションにてヒヤリング

9/22(日)

- 振興局にて**アプリファクトリー**はるni室屋さまより、ゲーム開発までの経緯や今後の展望、開発時にこだわった点などをヒヤリング
- 天文館視察
- いちき串木野市にてゲームの舞台となった史跡の見学と、串木野物産センターの竹原さまより、観光活動の状況やうたなつに対する期待をヒヤリングの後、『浜辺と食と音楽と。』へ参加

9/23(月)

- 鶴丸城跡、御楼門、仙巖園などの**鹿児島県内の有名史跡**を視察
- 日置市にて、重水さまによる案内のもと、島津四兄弟生誕の地亀丸城跡、妙円寺参りの終着地徳重神社などの見学
- 重水さまより、観光の状況や、日置市の目標、地元での島津公への認識をヒヤリング



2024/10/26, 27 第2回現地活動



10/26(土)

- ゲームのテーマに取り上げられている「**妙円寺詣り**」の見学
- ゲームとの**コラボイベント**（スタンプラリー、日置市観光案内所でのパネル展示）
- ネオ日置の体験と当日スタッフされていた**鹿児島国際大学のゼミ**の方々と知り合う
- 「まちのコイン」

10/27(日)

- 伊集院文化会館にて開催された**声優イベント**への参加

2025/2/28 第3回現地活動（最終報告会）



施策提言の具体的な内容

2025年度誘客促進事業案

1. 現地への誘導

- 2024年度を踏まえ、日置市との連携による**妙円寺詣りでの現地イベント**
- ゲーム内で豊久生誕地を紹介し、現地での**周遊型謎解きイベント**

2. 新規ファンの獲得：ゲームアプリの広報

- 同人イベントや戦国イベント等への**出展**

3. 既存ファンの維持：ゲームアプリの活用

- キャラクターブックの作成・配布
- イラストコンテスト
- 特産品とゲームアプリのコラボ商品
- ゲーム内の追加イベント**

我々からの提案

・コミックマーケットへの出展

東京ゲームショーへの出展を足掛かりにして**より客層が近い**と考えられるコミックマーケットへの出展を提案。

・ゲーム実況配信

新たなファン層の掘り起こしと知名度向上のために行政の担当者の方々に実況していただくことを提案、**普段慣れ親しんでいない人特有の新鮮な反応**が引き出せる点にポテンシャルがある。

・公式による聖地巡礼誘導

公式サイドが、途中の交通手段を含めて、半日で巡れる9箇所などのように、**パッケージで来訪者に提案**する。初期コストはかかる一方で**ランニングコストがかからない**点に特徴がある。

・季節のゲーム内イベントを開催

現在のアクティブユーザーの**コンテンツ離れを防止**するためにゲームの更新頻度を上げることを提案、この際に更新に係るコストを抑えるために新規キャラの実装等ではなくストーリー追加単独でも可能であると考えた。

・コミュニティによる主体的な関与

今まで1ユーザーであった人たちに**コンテンツ作成の過程**に入ってもらふ。具体的にはゲーム内の座学のクイズの制作やファンの書いたイラストを公式が使用することなどが考えられる。これらの取り組みにより**ファンからの主体的なファン活動を生みやすくする土壌を作る**。また、**参加の過程そのものがファンのコンテンツへの愛着につながる**ものと考えられる。

一年間の活動を通して

観光とは異なった視点から考える機会となった。ゲームアプリの認知度の向上と、ダウンロード数やアクティブユーザー数との間には大きなギャップがあることを実感した。しかし、**行政主導だからこそ持つ強み**もあり、この特性をどう活かすかが重要だと考えている。また、実際に現地に訪れ、提示された課題に真剣に向き合い、提案する施策の実現可能性まで検討する経験は、**我々の成長にもつながった**と感じている。一年で解決できるような課題ではないので、**鹿児島地域の方々とのご縁を大切に、引き続き模索していきたい**。



鹿児島県鹿児島地域を選んだ理由：父が鹿児島出身であるので、父の地元を応援したいと思ったから。

上敷領 悠那 / 理科二類 B1



鹿児島県鹿児島地域を選んだ理由：18年鹿児島で育ったにも関わらず鹿児島のことを何も知らないと感じ、地元のことを知りたいと思ったため。

河野 太郎 / 工学部 都市工学科 B3



鹿児島県鹿児島地域を選んだ理由：IPビジネスやゲーム市場に関心がある。行政が開発したゲームを活用して関係人口の創出に繋げようとすることに真新しさを感じた。

葛川 大斗 / 文学部 美学芸術学専修 B3

「うたなつ」のダウンロードはこちらから！ 「うたなつ」公式X

